

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	05	05	みやまえ太鼓ミーティング開催事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		地域振興課		滋野	65354	

事業の概要										
事業の概要		地域の魅力である文化・伝統の再認識と民俗芸能等を活用した地域コミュニティの促進を目的に、区内の太鼓演奏団体を一堂に会した「響け！みやまえ太鼓ミーティング」を継続開催します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業費		
		平成12年度		—						
地域の課題と現状		宮前区は昼間人口が少なく、地域のつながりが希薄となっていることについて、第1期区民会議で指摘されるなど、宮前区の特徴を活かし、人と人がつながるコミュニティを形成していくことや、円滑に地域文化・伝統を継承していくことが課題となっています。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
		事業費		2,851	2,520	1,877				
		財源内訳	国庫支出金							
		市債								
		その他特財								
		一般財源	2,851	2,520	1,877					

計画 (Plan)	
事業の目的	地域の魅力である文化・伝統を再認識し、民族芸能等を活用した地域コミュニティの促進に取り組みます。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●区民主体のイベントとすることで、区民や団体、地域間の交流を促進し、地域の一体感を図ります。 ●区内の中学校や保育園等にも協力してもらうことで、伝統文化の継承を促進します。 ●ゲスト出演者によるワークショップを開催し、太鼓団体のスキルアップを図ります。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		区内外12太鼓団体の参加と、保育園・中学校等の協力により、周年事業として「第20回 響け！みやまえ太鼓ミーティング」を開催し、例年を上回る1,700人の来場者があるなど、十分に効果があったと考えます。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	成果指標	来場者数	目標	1,700					人
				実績	1,700					
	2			目標						
				実績						
3			目標							
			実績							
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		区民を主体とした文化・伝統芸能等の保存と継承には、市民活動団体(太鼓団体や民族芸能継承団体等)へ活動や発表場所の提供等の支援が必要となっています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 27 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		伝統文化の創造・継承として、太鼓ミーティングから発生した楽曲「トキメキみやまえ」の継承に取り組んでいます。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	広報(チラシ・ポスター)デザイン募集への中学校の参加意欲の高さや、ワークショップや太鼓体験コーナーの参加者も多いことから、伝統文化に触れるニーズや興味は高いと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	天気の状況により来場者数は変動しますが、宮前区の夏の風物詩として定着しており、一定数以上の来場が見込まれます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	ゲストによる公演やワークショップを行わないことで経費の削減は図られますが、イベントの魅力が薄れ、夏の風物詩としての役割を果たせなくなるのが予想されます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
伝統芸能を披露する区内最大規模のイベントであり、宮前区の夏の風物詩として定着していることから継続して開催してまいります。また、太鼓だけではなく、区内に伝わる民俗芸能の紹介の場となっており、地域や学校等との連携強化を図りながら、地域文化・伝統の継承にも貢献していきます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	05	10	地域の魅力発信事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		地域振興課		吉川・渡利	内線65355	

事業の概要											
事業の概要		宮前区には歴史文化、自然、都市農業、市民活動等の魅力的な資源が数多くあるが、区民にあまり知られていないことから、隠れた地域資源の魅力に関する情報の収集・整理と、マップ作成やイベント等による効果的な情報発信を行うことで、区民の地域への関心や愛着心を深め、郷土愛の醸成につなげていきます。									
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業費			
		平成20年度		—							
地域の課題と現状		<ul style="list-style-type: none"> ●当事業により、区民に区の魅力を再発見してもらい、地域への関心や愛着心を深めてもらうとともに、地域づくりやまちづくりに対する参画を促すことが期待できます。 ●昼間人口比率の低い宮前区において、区外を日常の生活圏としている人が多く、地域をよく知らない区民が多いと考えられるため、地域の魅力を再認識し、共有してもらうことが地域づくり、まちづくりに必要となります。 ●第2期区民会議において、宮前区は歴史文化、自然、都市農業、市民活動等の魅力的な資源は多いが、区民にあまり知られていないことが課題と指摘されています。 									
予決算 (単位:千円)		年度		H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		事業費		予算額		決算額		予算額		決算額	
		財源内訳		521		453		828			
		国庫支出金									
		市債									
		その他特財									
		一般財源		521		453		828			

計画 (Plan)	
事業の目的	●地域資源を紹介するマップ等の発行や、マップを活用したウォーキングイベントの実施を通して、より深い地域資源への理解を促します。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●宮前区歴史文化調査委員会に委託し、歴史ガイドマップの作成やウォーキングイベントを実施します。 ●宮前区まちづくり協議会に委託し、区内農業に関する情報を掲載したマップの発行や、マップを活用したウォーキングイベントの実施します。また、区内農業の魅力を発信する農フォーラムを開催します。

実施結果 (Do)															
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った									
取組内容の実績等		<ul style="list-style-type: none"> ●宮前歴史ガイドまち歩きマップのNo.6(平)、No.10(王禅寺道)を改訂し、各6,000部 計12,000部作成・配布しました。 ●歴史・農に係るウォーキングイベントを計6回と、農フォーラムを1回開催するなど、目標どおり実施しました。 													
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指標		H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		単位	
		1		活動指標 宮前歴史ガイドを活用したウォーキングイベントの開催		目標 4								回	
				実績 4											
		2		活動指標 農家巡りウォーキングの開催		目標 2								回	
				実績 2											
		3				目標									
						実績									
		4				目標									
						実績									

評価 (Check)	
事業を取り巻く社会環境の変化	地域への愛着を深めるために、継続した情報の収集と整理、効果的な広報等の啓発活動が必要となっています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 27 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	宮前区の歴史的遺産を把握し、新たに国史跡に指定された「橋樹官衙遺跡群」を盛り込んだ「宮前歴史ガイド」(マップ)の改訂版を発行し、現状に即した啓発活動を推進しました。

評価項目				評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている		a	
	評価の理由	年に2回開催している農家巡りウォーキングは申込み当日に定員に達するなど、人気のあるイベントとなっており、区民の都市農業と地場産野菜への関心、ニーズは高まっていると考えます。			
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない		a	
	評価の理由	ウォーキングイベントへの参加希望者は多く、一部希望超過によりお断りすることもあることから、活動の成果は上がっていると考えます。			
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある		a	
	評価の理由	市民との協働事業として実施しており、これ以上の役割分担の見直し、経費削減は難しいと考えます。			

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
宮前区の魅力を再発見し、地域への関心や愛着心を深め、郷土愛の醸成につなげていくためには、引き続き、事業を継続して実施していくことが必要と考えます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	05	25	宮前区スポーツ推進事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			691700		まちづくり推進部地域振興課			斎藤	65360

事業の概要

事業の概要		健康を維持するために、区内スポーツ施設、川崎市または宮前区にゆかりのあるトップアスリートを活用し、スポーツ等を気軽に親しむ環境づくりをします。また、地域に根ざした総合型地域スポーツクラブへの理解と協力を促します。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域資源活用事業			
		平成22年度	—						
地域の課題と現状		区内スポーツ施設数が十分とは言えない中での、事業に参加した区民のスポーツや健康づくりの継続が課題です。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2,398	2,376	2,394					
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
	その他特材	425	308	425					
	一般財源	1,973	2,068	1,969					

計画 (Plan)

事業の目的	健康寿命延伸に向けた、子どもたちの体力向上、高齢者の健康づくりやコミュニケーションの場づくりをします。
今年度の事業の取組内容	フロンタウンさぎぬまとの連携事業、スポーツふれあい事業を実施します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	目標どおり達成できました。 ・フロンタウンさぎぬま連携事業45回実施 ・平成30年7月22日 宮前ふれあいスポーツフェスティバルを開催							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	
	1	成果指標 フロンタウンさぎぬま連携事業	目標	900	900	900	900	人
			実績	940				
	2	成果指標 宮前ふれあいスポーツフェスティバル	目標	530	530	530	530	人
			実績	703				
3		目標						
		実績						
4		目標						
		実績						

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、新たな課題に対応する必要があります。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	宮前ふれあいスポーツフェスティバルについて、仕様書を見直し、より多くの方が参加できるようにしました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区民がスポーツを行う機会を提供できており、事業のニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	フロンタウンさぎぬま連携事業、宮前ふれあいスポーツフェスティバルともにほぼ目標どおりの参加者数が確保できており、数値として現れていることから、一定の成果があったと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	フロンタウンさぎぬま、総合型地域スポーツクラブとの連携を進めています。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	フロンタウンさぎぬま、総合型地域スポーツクラブと連携を図りながら事業を継続することが適切であると考えられます。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(〇〇区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	05	30	地域情報発信事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			691650		まちづくり推進部企画課			杉本	65122

事業の概要									
事業の概要		地域への愛着や関心を高めるため、地域のイベントや伝統行事、様々な地域資源を盛り込んだ冊子等による情報発信を行います。ぐるっとみやえについては、2年ぶりの大幅改訂を行います。さらに、ガイドマップを発行し、区内の主要施設・防災拠点等の基礎情報の周知と共に、区の魅力発信を行います。また、「宮前兄妹」(2012年度誕生)など区の魅力をアピールするイメージキャラクターや、町内会・自治会への回覧物の一括配送の仕組みを効果的に運用していきます。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	地域資源活用事業				
		—	—						
地域の課題と現状		地域社会における住民相互の関係が希薄化する中、住民が地域に関心をもち、自ら参加していくためには、さまざまなメディアの活用による効果的な情報発信が必要です。イベントや伝統行事など地域で行われている活動や、区が実施している取組は数多くありますが、それを知る手段が少なく、区民会議においてこの課題について議論・提案が行われた経過があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	3,430	2,890	2,990					
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財	120	200	240					
	一般財源	3,310	2,690	2,750					

計画 (Plan)	
事業の目的	地域資源を掘り起こし、その魅力を発信することで、区民の地域への愛着や関心を高め、地域活動への参加を促進し、地域コミュニティの活性化を図ります。
今年度の事業の取組内容	みやまガイドマップの改訂・発行、転入者向け冊子「ぐるっとみやま」の改訂・発行、回覧物一括配送、PRキャラクター(宮前兄妹)の貸出を行います。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		ガイドマップの発行、区民が取材・執筆から関わる「ぐるっとみやま」の改訂・発行を行い区内の各施設へ配架したほか、来庁者の目にふれやすいよう、区役所内に区の刊行物をまとめたコーナーを作り、効果的な情報発信に努めました。また、区のPRキャラクターは、地域の様々なイベントで活用され、区民に浸透しています。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1				目標					
					実績					
	2					目標				
						実績				
3					目標					
					実績					
4					目標					
					実績					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		インターネットが普及し、様々な情報媒体が存在する中で、効果的な情報発信のあり方を検討して行く必要があります。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 27年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		様々な情報媒体があるなかで、情報発信のあり方を整理し、平成27年度末で「歳時記みやま」を廃止しました。今後も、既存の刊行物等について、効果的な情報発信のあり方を検討しつつ整理して行きます。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区民が一人ひとりが地域への愛着・関心をもつことが地域の様々な課題を解決していく糸口となるとことから、地域の活動や魅力的な地域資源の情報を発信していく必要性は、ますます高まっています。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	刊行物の配架方法を見直した結果、手に取る区民が確実に増えています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	広報媒体への広告募集・掲載を増やすことにより、さらなる歳入を得る可能性があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I 様々な広報媒体を効果的に組み合わせ、今後とも情報発信に取り組んでいきます。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	05	05	みやまえカルタ活用事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		地域振興課		岸本	65358	

事業の概要									
事業の概要		第2期区民会議から提案され作成した「みやまえカルタ」の貸出、販売を推進するとともに、地域に定着させ、区内外に誇れる宮前区の地域魅力発信のツールとして活用していきます。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業	
		平成22年度		—					
地域の課題と現状		都心のベッドタウンとして発展し、核家族化が進み、市外への通勤・通学者が多い宮前区では、地域への興味や愛着が薄れがちであるため、それぞれが日々暮らし過ごす地域を知ることにより、地域への関心や愛着を高めることが求められています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	49		0		37			
		財源内訳	国庫支出金						
市債									
その他特財 一般財源	49			37					

計画 (Plan)	
事業の目的	宮前区の魅力を引き出し、愛着を抱くきっかけ作りとして、「みやまえカルタ」を各地域に定着させ、区内外に誇れる宮前区の地域魅力発信のツールとするため、幅広い世代への啓発活動とカルタの販売・貸出を継続して推進していきます。
今年度の事業の取組内容	地区カルタ、記念カルタの販売と貸出の広報活動の推進 区内で開催されるイベント等における販売活動やカルタ展示等による普及促進

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		宮前区の魅力を引き出し、愛着を抱くきっかけ作りとして、「みやまえカルタ」を各地域に広め、区内外に誇れる宮前区の地域魅力発信のツールとなるよう、幅広い世代への啓発活動とカルタの販売・貸出を推進しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	成果指標	みやまえカルタの貸出数	目標	10	10			
				実績	9				
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
実績									
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		地域への愛着や関心が希薄となる傾向のある中で、区内外に誇れる資源を幅広い世代に伝えるとともに、情報発信を推進するためみやまえカルタの役割は将来に渡って重要なものとなっていきます。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		事業関係経費を削減し、販売に係る歳入予算額と同額の歳出需用費のみ予算化しました。	
評価項目			評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	
	評価の理由	幅広い世代へ宮前区の地域資源を継続して広めていく必要があります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	
	評価の理由	カルタの販売は一定のニーズを保っており、イベント用には大型版の貸出も継続しています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	
	評価の理由	事業経費を節減し歳入の範囲内での予算化を継続します。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 宮前区の魅力を引き出し、愛着を抱くきっかけ作りとして、「みやまえカルタ」を各地域に定着させ、区内外に誇れる宮前区の地域魅力発信のツールとするため、幅広い世代への啓発活動とカルタの販売・貸出を継続して推進していきます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	05	40	宮前区ふるさと意識高揚アーカイブ事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691650		企画課		松元	65121	

事業の概要

事業の概要		第4期宮前区区民会議において、人とのつながりや地域への帰属意識の希薄化、市民活動の認知度向上等が課題として議論され、各世代の文化や体験、記録を共有すること等を目標に、「区誕生40周年、市制100周年に向けたアーカイブ事業の実施」が提案されました。これを踏まえ、区役所内において検討を重ね、事業化するに至りました。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域資源活用事業	
		平成25年度		未定					
地域の課題と現状		様々な世代間交流の活動や社会的・文化的資産など地域資源に関する情報は、各団体等がバラバラに所有しており、包括的な収集・保存・活用は行われていません。放っておけば散逸の恐れがある地域資源の記録を世代間で保存・伝承して行く必要があります。また、まちの形成史を適切に把握・保存することは、今後のまちづくりに関する取り組みを行う上でも重要といえます。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	150	135	150					
	財源内訳	国庫支出金							
	市債								
	その他特財								
	一般財源	150	135	150					

計画 (Plan)

事業の目的	世代間交流の活動等を記録し、共有することで、世代間交流に対する参加意識の醸成をはかります。また、地域資源の記録を世代間で保存・伝承していくことで、宮前区へのふるさと意識を高めていきます。区誕生40周年、市制100周年を見据え、関係局等の動きも踏まえ事業の方向性を検討していきます。
今年度の事業の取組内容	過去の写真の募集を区民に呼びかけ、効率的・効果的に収集を行います。引き続き、アーカイブに関する各局区の動向の把握に努めていきます。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	事業展開方法を検討し、効率的・効果的な収集・管理について方向性を確認しました。また、パネル展を実施しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1	活動指標 区民の目に直接触れる機会の提供(展示等)	目標	1				回
			実績	2				
	2		目標					
			実績					
	3		目標					
			実績					
	4		目標					
実績								

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	市政100周年を見据えた全市的な動きを考慮しながら、宮前区としての取り組みの方向性を検討していく必要があります。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 27年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(年度から)		
	具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 27年度は庁内で試行的に写真を収集し、当初28年度以降は区民からの写真の収集等を検討していましたが、効率的・効果的な事業実施のため、実施手法を見直しました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域資源や地域活動を適切に記録し、世代間で保存・伝承していくことが求められています。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	ホームページ上での写真の公開のほか、パネル展を実施しました。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	区ホームページ上に「みやまえデジタルミュージアム」を開設したことで、大幅なコスト負担なく、運用していくことができています。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	今後は、「みやまえデジタルミュージアム」やパネル展の公開資料・写真を充実させるとともに、広く区民の目に触れる機会について検討していきます。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(〇〇区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	05	45	宮前区総合情報発信事業費			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			691650		企画課			杉本	65122

事業の概要									
事業の概要		区内の魅力的な地域資源を区内外に広く発信し、区民の地域への愛着の醸成や地域のイメージアップを図ることを目的に、宮前区の広報番組を制作、放送します。また、区役所ロビーの窓口券券モニターやYouTubeでも動画配信を行います。区民目線での魅力発信を目指し、番組の企画・取材は区民が記者となって行います。							
実施期間		事業開始年度 平成29年度		事業終了年度 —		予算中事業		地域資源活用事業	
地域の課題と現状		情報発信の媒体が多様化する中、より効果的な情報発信の方法として、紙媒体を主とした情報発信から、新たな媒体として映像の導入を模索していく必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,499	1,499	1,608					
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	1,499	1,499	1,608					

計画 (Plan)	
事業の目的	区内の魅力的な地域資源を発信することで、それを見た人が地域への愛着・関心を深め、地域とつながりを持つきっかけとすることを目的とします。
今年度の事業の取組内容	宮前区の地域情報冊子『ぐるっとみやまえ』の特集と連動した番組を制作し、複合的なメディア展開を行います。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		区民の情報発信団体「みやまえ情報ラボ」と協働して、宮前区広報番組「ぐる〜っとみやまえTV」を3本制作し、地域のケーブルテレビ「イツツ・コミュニケーションズ」で放送しました。また、区役所ロビーの窓口券券モニターやYouTubeでも動画配信を行いました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位
	1 活動指標	番組制作本数	目標	3					本
			実績	3					
	2 活動指標	動画配信本数	目標	3					本
			実績	3					
3		目標							
		実績							
4		目標							
		実績							

評価 (Check)					
事業を取り巻く社会環境の変化		更なる区民の地域への愛着の醸成や、地域のイメージアップを図るために、区内の魅力的な地域資源の情報の収集と整理、効果的な広報等の啓発活動の実施が必要となっています。			
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(年度から)			
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		切れ目のない情報発信を行うため、平成30年度の「イツツ・コミュニケーションズ」での放送回数及び放送期間を変更しました。			
評価項目				評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか			a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	番組の企画・取材を区民記者が行っており、区民目線で区内の魅力的な地域資源を効果的に発信できたと考えています。			
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか			a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	動画制作本数について、目標値を達成するなど、一定の成果があったと考えています。			
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか			a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	区民目線での魅力発信には、区民と協働で行う事業スタイルが最適であり、役割分担等の見直しは難しいと考えています。			

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	区内の魅力的な地域資源を区内外に広く発信し、区民の地域への愛着の醸成や、地域のイメージアップを図るためには、引き続き、区民記者と協働して、事業を継続して実施していくことが必要と考えています。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	10	05	花と緑のあふれる住みよいまちづくり事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		地域振興課		渡利	内線65355	

事業の概要									
事業の概要		花苗支援等を通じて、緑化活動団体の活動の活性化と、団体相互の交流を推進させることにより、区民による花と緑のあふれるまちづくり(緑化活動)の促進、区内の緑化団体・公園管理団体の拡充を行います。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業	
		平成23年度		—					
地域の課題と現状		現在、区内の公園においては自主管理団体(緑化活動団体)が個別に活動し、また、3割の公園においては、地域による自主管理がされていない状況にあります。第4期宮前区区民会議においても、公園を地域コミュニティの核として活用することが求められており、地域管理の促進とネットワーク化が必要となっています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,661	1,577	1,631					
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特材 一般財源	1,661	1,577	1,631					

計画 (Plan)	
事業の目的	区内緑化活動団体へ花苗の支援を行うとともに、緑化促進に関する講座等を開催することで、区内の緑化推進及びコミュニティの醸成を図ります。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●区内の公園・公有地内にある花壇を自主管理している緑化活動団体に花苗等を提供します。 ●緑化活動団体の活動の活性化を図るため、緑化促進に関する講座等を開催します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		<ul style="list-style-type: none"> ●区内の活動団体に対して花苗の提供(36団体あて、12,651株)を行いました。 ●公園等を管理する団体の設立支援を行うことで、団体数の増加につながり、区のイメージアップと、公園の地域管理の促進に貢献することができました。 								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位		
	1	成果指標	区内花壇管理団体に対する花苗支援数	目標	9,000				株	
				実績	12,651					
	2	成果指標	花苗等の支援を行っている緑化活動団体数	目標	35				団体	
				実績	36					
3			目標							
			実績							
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		地域のつながりの希薄化や高齢化に伴い、コミュニティづくりに寄与する活動が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		新規花壇管理団体の育成支援について、一定期間広報した結果、これ以上の花壇作成希望者は現れない見込みであることから、新規花壇管理団体への支援を30年度を以って終了としました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域で緑化活動を行う市民活動団体は、財政基盤が弱いため、自主管理を進める上でも花苗提供支援の必要性は高いと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	花苗支援を希望する緑化活動団体は増加しており、区内の公園等の適正管理と緑化が進み、区のイメージアップにつながっていると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	市民との協働事業として実施しており、これ以上の役割分担の見直し、経費削減は難しいと考えます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 今後も継続した区内の公園の適正管理と緑化に向けて、活動団体への支援の継続は必要と考えます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	10	10	まちづくり推進事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		地域振興課		吉川・渡利・滋野	内線65354	

事業の概要											
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ●「川崎市市民活動支援指針」や「宮前区まちづくりプラン」に基づき、行政主導ではなく区民主体のまちづくりを推進し、市民活動団体の活動が活性化するような環境を整備する必要があります。 ●区内で活動する市民や市民活動団体を「つなぐ・むすぶ・ひろげる」という中間支援機能を持った宮前区まちづくり協議会と協働して取り組むことで、市民活動団体を情報面、資金面等から支援するとともに、団体間の交流や連携を促進し、地域の活性化を図ります。 									
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業			
		平成9年度		—							
地域の課題と現状		<ul style="list-style-type: none"> ●宮前区まちづくり協議会の持つ中間支援機能により、地域で活動する市民活動団体等のネットワーク化を推進し、市民活動の活性化や地域の人材育成を図ることができます。また、地域が抱える課題解決にも取り組むことにより、区民主体のまちづくりを推進することができます。行政と協働のまちづくりに寄与しています。 ●課題として、まちづくり協議会構成委員の高齢化による世代交代と後継者育成が必要です。 ●社会状況の変化によって地域が抱える課題も変わるため、区民自身がより主体的にその解決に向けて取り組む必要があります。 									
予決算 (単位:千円)		年度		H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		事業費		4,050		3,846		4,054			
		財源内訳		国庫支出金							
				市債							
				その他特材							
				一般財源		4,050		3,846		4,054	

計画 (Plan)	
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ●区民主体の組織であるまちづくり協議会が市民活動の場や資金の提供、情報発信等の支援を実施することにより、区内市民活動団体の活動が活性化され、地域のまちづくりが推進しています。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●市民活動の活性化を図るため、行政と連携・協働した事業の展開を行います。 ●区役所主催事業等への参画により、市民との協働のまちづくりを推進します。 ●地域に対する意識向上や魅力発見、まちづくりへの理解を深めるため、各種イベントを開催します。

実施結果 (Do)															
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成		4. 目標を下回った									
				2. 目標を上回って達成		5. 目標を大きく下回った									
				3. ほぼ目標どおり											
取組内容の実績等		<ul style="list-style-type: none"> ●21の市民活動団体の育成を目的とした資金支援を実施しました。 ●まちづくり広報紙の全6回の発行しました。 ●スキルアップ研修の実施(2回)と団体間の交流の場の提供(2回)による活動の活性化等を図りました。 ●区内市民活動団体の活動発表の場として、まちづくり広場ラブリみやまを2月に開催しました。 													
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指標		H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		単位	
		1 活動指標		広報紙「まちづくり広場」の発行		目標 6								回	
				実績 6											
		2 活動指標		まちづくり広場ラブリみやまの開催		目標 1								回	
				実績 1											
		3 成果指標		資金支援交付団体数		目標 20								団体	
				実績 21											
		4				目標									
						実績									

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		社会環境の変化に伴い、団体事務の適正化を図りました。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 28 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		・委託事業を一部見直し、補助金を設置しました。 ・組織と事業の見直しを行い、広報紙の内容と発行回数を変更しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区内市民活動の活性化のため、まちづくり協議会を通じた市民活動団体への情報や資金提供などの中間支援は必要と考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	新たな市民活動団体を支え、地域課題の解決につながる情報発信や資金支援などの活動を行なっています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	団体組織の改革に併せて、事業の見直しも検討課題となっており、経費支出の改善につながる努力は続けていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I 今後も、まちづくり協議会を通して、環境の変化に合わせた市民活動の活性化に係る場や資金の提供、情報発信等の支援を実施することが必要と考えます。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	10	15	まちづくり支援事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		地域振興課		吉川	内線65354	

事業の概要									
事業の概要		地域にとらわれない外部の立場からの提案や助言及び情報提供等は、区民との協働のまちづくりを推進していく上で必要不可欠であり、区民主体の組織である宮前区まちづくり協議会の活動が効率的・効果的になるよう側面から支援していきます。							
実施期間		平成20年度		事業終了年度 —		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業費	
地域の課題と現状		<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり協議会が適正かつ円滑な組織運営や会議進行等のための助言・提案等を受けることで、区民主体のまちづくりの推進につなげることが可能となります。また、区内で活動する市民活動団体に対し、効果的な情報発信や交流促進の方法、後継者育成等の課題解決に役立つ情報やアドバイスを専門的見地から提供していくことが可能となります。 ●まちづくり協議会委員の構成、年齢、経験等を踏まえた、協議会活動の継続性や、まちづくりに係る状況変化に対応した、適切なコンサルティングが引続き求められています。 							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
		事業費		3,048	3,047	3,104			
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特材								
	一般財源	3,048	3,047	3,104					

計画 (Plan)	
事業の目的	●市民活動団体の相談対応、活動を発展させる情報、ノウハウの提供等を行うためコンサルティング業務を委託し、宮前区まちづくり協議会の活動を支援します。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●中間支援機能を持つまちづくり協議会へのコンサルティング業務を行います。 ●まちづくり協議会の各部会等の会議、イベント等の運営支援を行います。

実施結果 (Do)								
上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	年間約60回の会議に参画し、企画支援、市民活動の活性化のためのノウハウ・資料の提供、行政への助言の他、チラシ、ポスター作成支援など、まちづくり協議会の適正な活動につながる支援を行いました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1			目標				
				実績				
	2			目標				
				実績				
	3			目標				
				実績				
	4			目標				
実績								

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		中間支援組織としての「まちづくり協議会」の活動と、市民活動団体個々への資金支援や発表の場の提供のためには、専門的なノウハウと情報が必要となっています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 23 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>		まちづくりに関わる活動の内、コンサルティングに関わる活動を圧縮して経費削減に努めました。	
評価項目			評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか		a. 薄れていない b. 薄れている
	評価の理由		a
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか		a. 上がっている b. 上がっていない
	評価の理由		a
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか		a. 可能性はない b. 可能性はある
	評価の理由		b

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	まちづくり協議会の適正な組織運営や会議進行、団体支援等につながる助言や提案、情報提供等を得ることで、区内の地域活動の活性化が図られているものと考えます。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	10	20	みやまえスポーツふえすていばる開催事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		地域振興課		加藤	65351	

事業の概要									
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ●地域で行われているソフトボール、バレーボールやドッチビー等のスポーツ大会を企画し、実施することで競技レベルの向上を図るとともに、チームを越えた区民同士の親睦の場を創出していきます。 ●地域スポーツを促進し、区民がスポーツに触れる機会の拡充を図るために、自主的に行われているスポーツ大会を区長賞の贈呈により支援していきます。 							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業	
		平成3年度		—					
地域の課題と現状		地域で支え合うまちづくりは、非常に重要ですが、区民同士が知り合いになる機会が不足しているため、スポーツを通じて、区民同士が交流できる機会を創出し、地域の活性化やコミュニティを形成していく必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2,003	1,815	1,979					
財源 内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	2,003	1,815	1,979					

計画 (Plan)	
事業の目的	スポーツに親しみ、楽しむことは、体を動かすことによる爽快感だけでなく、健康・体力の維持増進や人と人との地域における一体感をもたらす効果を期待することができます。地域でのスポーツ大会を地域が主体的に企画・運営することで、スポーツを通して区民同士が交流を深めスポーツ等に親しみ機会をつくり、地域コミュニティの活性化を図ります。
今年度の事業の取組内容	女子バレーボール大会(宮前区・宮前地区・向丘地区)、ソフトボール大会(宮前地区・向丘地区)、ドッチビー大会(宮前区・宮前地区・向丘地区)、歩こう会(宮前地区・向丘地区)、ディスクパーウォークみやまえ(宮前地区・向丘地区)、区長賞贈呈、AED貸借

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		目標どおり達成できました。 今年度は、宮前地区ドッチビー大会が悪天候により中止となっているため、全体の参加者数が目標値より減少しています。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	成果指標	全参加者	目標	1,500					人
				実績	1,414					
	2			目標						
				実績						
3			目標							
			実績							
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		子どもが外で遊ぶ機会の減少。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		事業内容について見直しを行ったところ、フットサルは認知度が高くなっており、自主的に開催される大会も増加していることから、平成28年度まで開催していた宮前区ジュニアフットサル大会を廃止し、平成29年度から新たに宮前・向丘両地区で実施されており、参加者数が年々増加している、ドッチビー大会の区大会を開催しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域コミュニティの希薄化が年々進んでいるため、ニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	各大会等でのアンケート調査で、高い評価をいただいているため、成果があったと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	委託団体と協議を行い、社会環境の変化に対応したスポーツ大会等を企画していきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 近年フットサルは、認知度が高くなっており、自主的に開催される大会も増加しています。それとは対照的に、ドッチビーの認知度は低く、自主的に大会を開催することが困難になっています。このことから、宮前区ジュニアフットサル大会を開催せず、参加者数が年々増加している、ドッチビーの区大会を来年度も引き続き開催いたします。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	10	25	多様な主体が参画する子どもあそびランド事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691750		生涯学習支援課		戒田	888-3911	

事業の概要									
事業の概要		遊びを通じて子どもと中高生・シニアなど世代間や多様な市民の交流を図るため、「夏休み子どもあそびランド」を実施する。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化推進事業	
		平成23年度		—					
地域の課題と現状		多様化する地域課題の解決に向けて、遊びをキーワードにした世代間交流や多文化交流の場を提供することにより、多様な市民による、活性化した地域コミュニティを創造する必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	560	559	595					
財源 内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	560	559	595					

計画 (Plan)	
事業の目的	小学生・中学生・高校生・大学生・成人・高齢者・外国人・障がい者といった多様な市民同士が交流する場の提供を目的とします。
今年度の事業の取組内容	イベントは、夏休みの最後の日曜日に市民館全館を使って開催し、日本に古くからある遊びや、大量の水を使った遊び場、カンパジづくり、舞台での活動発表などを通じて、幅広い世代間の交流を行います。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		・8月19日に開催、約3,300人が来場 ・5月14日、6月2日、2月13日の計3回企画委員会を開催したほか、準備作業を行いました。 ・サポーター養成講座を8月7～9日に開催							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	成果指標	来場者数	目標	3,000				人
				実績	3,300				
	2			目標					
				実績					
3			目標						
			実績						
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		幅広い年代のより多くの方々の企画委員への参加、中高生・青年層のサポーター協力への理解・促進が課題です。 子どもたちに多彩な遊びを教え提供し継承できる新たな若い世代の遊びの達人の発掘、養成が必要です。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(平成31年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		熱中症対策について見直す予定	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	幅広い世代・多様な立場の市民が地域で交流することは、引き続き重要と考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	遊びの達人や学生ボランティアを新規に集めることで、新たな交流を生み出しています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	企画運営委員会に委託をする現在の方式が、区内の多様な人材の参加を得る上で望ましいと考えます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
		引き続き、多様な人々たちとの交流の機会を持つことができるよう、内容や方法を工夫しながら事業を継続します。また、交流を広げ、地域コミュニティ創造の一助とするために、企画運営委員会や遊びの達人、サポーターの新たな人材を募集していきます。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	10	30	地域活動の促進に向けた人材育成及び推進体制の整備事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691750		生涯学習支援課		戒田	888-3911	

事業の概要										
事業の概要		地域人材の育成と活用を進めるため、地域人材育成指針の策定に基づき、区役所各課が連携したモデル事業を行います。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化推進事業		
		平成23年度		—						
地域の課題と現状		区の事業実施に必要な人材や市民活動の担い手の確保が難しく、地域への広がりが弱い状況にあることから、講座等を通じて育成した人材を実際の活動につなげ、活用していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費	192	145	143					
		国庫支出金								
市債 その他特財 一般財源		192	145	143						

計画 (Plan)	
事業の目的	行政が市民と協働で実施するための、地域で活動する人材を育成することを目的とします。
今年度の事業の取組内容	様々な市民が地域活動に関わることのできるテーマを設定し、実践的な内容の講座を行います。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		地域振興課と連携し、12月6日、13日、27日、平成31年1月10日、17日、24日、31日、2月7日(全8回)に、「宮前の歴史探検プロジェクト! 古道から見る歴史講座」を開催しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1 活動指標	講座実施数	目標	1					回
			実績	1					
	2		目標						
			実績						
	3		目標						
			実績						
	4		目標						
実績									

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		宮前区内では、地域人材の後継者不足による高齢化、固定化が進んでいます。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		毎年度、様々な地域活動の中から事業内容を検討しています。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域活動や市民協働に向けた地域の人材育成は、今後も重要と考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域活動への関連付けを意識した実践的な内容とし、より事業趣旨に合わせたものとなりました。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	関係機関と連携し、有効な手段について今後も検討していく必要があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
関係機関と連携・協議しながら、地域活動への参加と地域の人材育成に向けて、引き続き事業を継続していきます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	10	35	市民活動支援拠点のネットワーク事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		地域振興課		渡利	内線65355	

事業の概要									
事業の概要		市民活動拠点を中心とした地域のコミュニティづくりを推進するとともに、市民活動団体の活動支援や、団体相互の交流促進を図るため、区民活動支援コーナー等の運営支援、情報発信を行います。							
実施期間		事業開始年度 平成22年		事業終了年度 —		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業費	
地域の課題と現状		地域のコミュニティづくりを進めるにあたり、市民活動団体の活動は重要な役割を担っているが、活動場所の確保や情報の発信、他団体との連携において、その機会や情報が不足している状況にあります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	571	493	451					
	財源内訳	国庫支出金							
	市債								
	その他特財								
	一般財源	571	493	451					

計画 (Plan)	
事業の目的	市民活動の活性化のため、区役所、市民館及びこども文化センター等にある市民活動拠点の周知や、活用の促進を図るとともに、施設機能面での充実も進めていきます。
今年度の事業の取組内容	各支援コーナーに対し、印刷機器賃借料支出等の運営支援を行います。また、各支援コーナー等の利用率が横ばい傾向にあるため、市民活動拠点の情報マップの配布等により、稼働率アップに向けた情報発信を行います。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		市民活動の活性化のため、各支援コーナーに対して印刷機器賃借料支出など、適正な運営支援を行いました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	成果指標	宮前区役所区民活動支援コーナー登録団体数	目標	70				団体
				実績	73				
	2	成果指標	宮前区役所区民活動支援コーナー稼働率	目標	50				%
				実績	41				
	3	成果指標	向丘地区区民活動支援コーナー登録団体数	目標	40				団体
実績				41					
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		地域の課題が複雑化していくなか、市民活動団体の重要性が増してきていることに伴い、活動場所や情報を提供する支援コーナーの必要性も増えています。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	各支援コーナーの会議室、印刷機等の利用団体は多く、ニーズは高いと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	各支援コーナーの会議室、印刷機等の利用団体は多く、市民活動の活性化につながっていると考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	各支援コーナーの管理運営については区民主体で行っており、予算のほとんどが印刷機のリース代ですが、仕様の見直し(経費削減)に努めています。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
市民活動の活性化には、印刷機などの活動資本や会議室など場の提供は必須であるため、今後も継続していく必要があると考えます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	10	40	みんなの道路公園事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			696100		宮前区役所道路公園センター			窪井	75560

事業の概要									
事業の概要		地域に身近な公園緑地を活用して、公園への愛護活動を実施する。 ・公園の管理運営協議会、公園、街路樹等の愛護会及び町内会・自治会との協働による清掃活動 ・区内小学校の協力を得て、公園内の樹木への小学生による樹名板の設置作業							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化事業			
		—	—						
地域の課題と現状		地域に対する意識の希薄化、区民の高齢化、孤立化や就労年齢の延長等により協働の担い手不足が進行しており、地域コミュニティの活性化、協働の推進及び協働の担い手の育成が必要となっています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	139	105	1,045					
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	139	105	1,045					

計画 (Plan)	
事業の目的	協働清掃をきっかけとした地域コミュニティの活性化、愛護精神に基づく公園の管理活動の推進及び協働の担い手となる次世代の育成を図ります。
今年度の事業の取組内容	公園の管理運営協議会、公園、街路樹等の愛護会及び町内会・自治会との協働による清掃活動並びに区内小学生による公園内の樹木への樹名板の設置作業

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		4月22日、土橋5丁目ポケットパーク及び土橋ひだまりポケットパークにおいて、土橋てんで山公園管理運営協議会及び近隣住民と協働清掃を実施しました。後日、両公園とも管理運営協議会を設立しました。7月21日、宮前美しの森において、愛護会と協働清掃を実施しました。10月27日、有馬ふるさと公園において、西有馬小学校の児童による樹名板の設置を行いました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	成果指標	区民と協働による清掃活動回数	目標	3	3	3	3	回
				実績	3				
	2	成果指標	樹名板の取付参加者数	目標	20	20	20	20	人
				実績	21				
	3			目標					
実績									
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		地域の身近な問題解決に向けた区民参加、協働による取組及び地域への愛着の醸成が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目			評価
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	協働の担い手不足が進行しており、地域コミュニティの活性化策の推進が必要です。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	公園緑地の愛護活動団体が増加しました。また、樹名板設置の実施により公園や樹木への愛着が深まりました。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	職員2名のみで実施しており人員の削減は困難です。予算については今年度削減しました。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	協働清掃は、協力団体探しに難航するため、早期に働きかけを行っていきます。 樹名板の設置は、天候が安定し温暖、さらに蜂の被害が少ない10月頃に実施します。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	10	45	町内会・自治会加入促進事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			691700		まちづくり推進部地域振興課			丸山	65351

事業の概要

事業の概要		区内の町内会・自治会の加入促進活動を支援するため、町内会・自治会の役割やエリア図を掲載した「宮前区 町内会・自治会ガイドブック」を作成・配布します。 ガイドブックについては、町内会・自治会の加入促進活動の実態に即して活用しやすいものとなるよう、宮前区全町内・自治会連合会との意見交換を継続していきます。エリア図は不動産業者や転入者などの情報を必要としている方々に向けて、区ホームページ等で公開するなど、加入相談のきっかけとなるよう取り組んでいきます。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域コミュニティ活性化事業	
		平成28年度		—					
地域の課題と現状		町内会・自治会は、地域のコミュニティ形成における中心的な役割を担っており、高齢者や子どもの見守り活動、自主防災組織の設立・運営など、安心・安全なまちづくりを推進していく上で、非常に重要な役割を果たしています。一方、町内会・自治会役員の高齢化や担い手不足などが課題となっているほか、町内会・自治会への加入を負担と感じる世帯が増えるなど、市民のコミュニティに対する意識が変化してきています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	281	281	281					
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
	その他特材								
	一般財源		281	281	281				

計画 (Plan)

事業の目的	地域コミュニティの活性化により、区民の誰もが心豊かに安全・安心な生活を送れるようにします。
今年度の事業の取組内容	宮前区全町内・自治会連合会との意見交換を踏まえて「町内会・自治会ガイドブック」を改訂(増刷)し、配布します。エリア図をホームページ等で公開するなどして、地域振興課への加入相談の連絡を促進します。

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	製本の仕様を見直して印刷部数を増やすことで、町内会・自治会関係者だけでなく、全ての転入者に「町内会・自治会ガイドブック」を配布する方式に変更しました。地域の情報を必要とする転入時というタイミングを捉えて、的確に町内会・自治会に関する情報を提供できるようになりました。ホームページにも情報を掲載し、地域振興課への加入相談の連絡を促しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1 成果指標	町内会・自治会ガイドブックの作成		目標 12,000				部
				実績 12,000				
	2			目標				
				実績				
3			目標					
			実績					
4			目標					
			実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	少子高齢化が進む中で、地域での助け合い、支え合いは大切なものであると改めて見直されてきており、地域コミュニティの中核を担っている町内会・自治会の重要性も増してきています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	町内会・自治会関係者だけでなく、全転入者への配布を実現しました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	川崎市では地域包括ケアシステムを推進しており、少子高齢化が進む中で、地域での助け合い、支え合いは大切なものであると改めて見直されてきている。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	宅地開発等による転入者が多く、町内会・自治会に関する問い合わせも多く、一定程度の周知が図られている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	引き続き、町内会・自治会と連携しながら加入促進に努めてまいります。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	町内会・自治会加入促進ガイドブックを作成・配布を通じた加入促進に努めると共に、地域の実情に応じた支援策を検討・実施していきます。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	10	50	区民祭開催経費			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			691600		総務課			松井	65111

事業の概要									
事業の概要		地域や各種団体、世代間の交流促進や地域コミュニティの活性化を図るとともに、地域への関心や愛着を育んでいくため、誰もが気軽に参加できる、区民の手づくりによる区民祭を開催します。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域コミュニティ活性化事業			
		昭和57年度	—						
地域の課題と現状		区内の急速な宅地開発や都心部のベッタタウン化が進む中、人と人とのつながりや地域への関心が希薄になってきています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	252	252	245					
	財源内訳	国庫支出金							
	市債								
	その他特財								
	一般財源		252	252	245				

計画 (Plan)	
事業の目的	区民祭の開催を通して、地域や各種団体、世代間の交流促進や地域コミュニティの活性化を図るとともに、地域への関心や愛着を育んでいきます。
今年度の事業の取組内容	区民がより親近感や達成感を感じることができる区民祭の実施に向けて、区民と区役所との協働により取り組みます。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		目標どおり達成できました。 平成30年10月21日、宮前区役所周辺で区民祭を開催しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	開催回数	目標	1	1	1	1	回
				実績	1				
	2			目標					
				実績					
3			目標						
			実績						
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化			
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 26 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		平成26年度から会場を北部市場から宮前区役所及び宮前市民館に移し開催しています。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区民祭への参加希望や開催日時に関する問合せは多くあり、事業のニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	多くの団体・個人が参加するとともに来場者に宮前区の魅力を発信することができていることから、成果があったと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	区民と協働し、活気あふれる区民祭として発展させるため、前年度の課題解決に向け、取り組んでいきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
多くの団体・個人が参加し、区民に定着していることから、継続開催が望ましいと考えます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	15	05	健康づくり支援事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			695130		地域支援課			成川	65629

事業の概要									
事業の概要		今まで認知症カフェ等リストを作成し配布していたが、より区民が見やすく参加しやすいようにマップ化して普及啓発を行います。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		地域の輪・健康づくり事業			
		—	—						
地域の課題と現状		高齢化と同時に認知症患者も増加傾向にあります。そのような中で認知症の方も安心して地域で暮らせるような仕組みづくりが重要になります。地域における認知症カフェ等は、誰でも参加できる場所であり認知症を正しく理解できるような取組が行われています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	296	181	131					
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
	その他特財								
	一般財源	296	181	131					

計画 (Plan)	
事業の目的	認知症の方や家族、関係機関が認知症に関する正しい知識を習得できるようにします。
今年度の事業の取組内容	現在ある認知症カフェ等リストを基に、認知症キャラバン・メイト交流会の機会を活用しマップを作成し、区民に配布します。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		宮前区内認知症カフェ等のリストをもとに関係機関に掲載内容を確認しマップ化し、区役所窓口や地域包括支援センター等で4,000部配布。区民へ普及啓発を行いました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	認知症カフェマップの作成			目標 4,000				
						実績 4,000				
	2					目標				
						実績				
3					目標					
					実績					
4					目標					
					実績					

評価 (Check)									
事業を取り巻く社会環境の変化		高齢化に伴い認知症患者の増加が予測されています。認知症の方も安心して地域で暮らせるような仕組み作りが必要です。							
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)							
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載									
評価項目					評価				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか				a. 薄れていない b. 薄れている		a		
	評価の理由		認知症患者の増加が予測されており、事業に対するニーズは高いと考えられます。						
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか				a. 上がっている b. 上がっていない		a		
	評価の理由		認知症カフェ等は、誰でも参加できる場所であり、認知症を正しく理解できるような取組が行われています。						
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。				a. 可能性はない b. 可能性はある		b		
	評価の理由		関係機関と役割分担の見直し等による改善を進めていきます。						

改善 (Action)									
今後の事業の方向性		方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性					
		I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	今後、地域における認知症カフェ等の増加が見込まれるため、改定版の作成等を行うとともに、認知症の人やその家族への支援を継続していきます。					

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	15	10	地域包括ケアシステム推進事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			695000		保健福祉センター地域ケア推進担当		永塚	65512	

事業の概要										
事業の概要		地域住民や町内会・自治会、民生委員児童委員、保健・医療・福祉関係機関、ボランティア団体など地域内の多様な主体の取組とともに、主体間の緊密に連携し、区役所組織機構でも、地域内の多様な主体と協働する取組を推進することが必要です。多様な主体と連携・情報共有しながら、地域包括ケアシステムを構築していきます。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域の輪・健康づくり事業		
		平成28年度		—						
地域の課題と現状		地域包括ケアシステムの推進にあたり、区民や区役所職員の意識づくりと、関係団体の連携強化が必要となります。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
		事業費		3,285	2,397	3,173				
		財源内訳								
	国庫支出金									
	市債									
	その他特材									
	一般財源	3,285	2,397	3,173						

計画 (Plan)	
事業の目的	地域包括ケアシステムの推進に向けて、区民や区役所職員の意識醸成と関係団体の連携強化を図ります。
今年度の事業の取組内容	地域包括ケアシステムの推進に向けて、聖マリアンナ医科大学・田園調布大学との3者協定に基づく医療と福祉に関するアンケート結果等を活用した、地域課題解決に向けたワークショップを実施し、宮前区らしい地域包括ケアシステムを推進します。また、ワークショップの成果を地域へ還元し、関係団体・部署と共有し、各々の取組に反映していきます。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	関係団体との連携により、圏域会議、地区社会福祉協議会、市営住宅、みやまエカフェ連絡会、地域のカフェなどにそれぞれの団体のニーズに沿った講師を派遣することによりワークショップ・勉強会の実施を支援した。また、宮前区地域包括ケアシステム推進シンポジウム「地域づくりの実際の実践事例から考える」を開催(149名参加)し、支え合い活動の事例発表と専門家の講演により地域住民の連帯・協働の意識の醸成を図りました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	シンポジウムの開催	目標	1				回数
				実績	1				
	2			目標					
				実績					
3			目標						
			実績						
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	急速な高齢化が進む中、誰もが安心して住み慣れた地域や自らが望む場で生活していくためには、地域住民や町内会・自治会、民生委員児童委員、保健・医療・福祉関係機関、ボランティア団体など地域内の多様な主体の取組とともに、主体間の緊密な連携が求められています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	行政主導でのワークショップ開催から、希望する団体へ随時講師を派遣する形に方法を見直したところ、団体のニーズに沿った内容の支援を数多く実施することができるようになりました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区民の誰もが安心して住み慣れた地域や自らが望む場で生活していくためには、今後も区内における地域包括ケアシステムの自助・互助に対する意識づくりや関係団体との連携が必要となるため、必要性は高いと考えます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	地域づくりへの関心喚起・課題の共有・つながりづくりのきっかけとして、一定の成果があったと考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	関係機関等と連携しながら、より効果的な支援方法等に関する検討を進めていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
より多くの関係機関や地域活動団体、区民の方々が多様な連携を進めて活動に主体的に取り組めるよう、地域情報などに基づき、地域のニーズや地域課題に対応した活動のきっかけづくりを支援できるよう啓発を強化しつつ、事業を継続することが適切であると考えられます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	15	15	しあわせを呼ぶコンサート開催事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		地域振興課		岸本	65358	

事業の概要									
事業の概要		ベートーベンの第九を原語で合唱したいというある障害者の方の想いを受けて、区内在住の音楽家と福祉施設関係者等の尽力により、平成12年に第1回のコンサートとして実現しました。以降、ボランティア団体や関係者の連携とともに市の音楽事業の推進ともタイアップして宮前区主催、市民館大ホールを使用し、第一部は合唱、第二部はプロによる演奏で、地域に暮らし集う方々の相互理解と交流を深め、バリアフリー社会の構築と障害者福祉の増進に寄与していきます。							
実施期間		事業開始年度 平成12年度		事業終了年度 —		予算中事業		地域の輪・健康づくり事業	
地域の課題と現状		毎年、本コンサートの実施に向けて、宮前区内の障害者施設は、宮前区障害者施設・作業所等連絡会として連携して活動し、自立支援と社会参画の推進のため、障害者の活動支援に取り組んでいます。本年度で第20回目となり、地域に広く定着した事業ですが、区役所、連絡会及び実行委員会による連絡調整を一層、密にししながら事業の安定的継続へ取り組んでいます。							
予算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2,779	2,759	3,281					
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特材								
	一般財源	2,779	2,759	3,281					

計画 (Plan)	
事業の目的	宮前区の障害者福祉事業として、障害者の自立支援、社会参画の推進へ向け、障害者の音楽活動を紹介するとともに、社会参加の機会を提供していきます。また、地域に暮らし集う方々の交流と相互理解の場としてコンサート事業として開催し、自立支援・バリアフリーといった福祉の増進を図ります。
今年度の事業の取組内容	実行委員会による検討を重ねて、第一部:宮前区内の障害者施設・作業所の利用者の方々による合唱、第二部:一流の演奏家によるゲストステージとして構成し、併せて、市民館ロビーにおいて各施設での手作りの食品・作品等を展示販売し活動紹介を行います。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等		実行委員会による検討を重ねて、第一部:宮前区内の障害者施設・作業所の利用者の方々による合唱、第二部:一流の演奏家によるゲストステージとして構成し、併せて、市民館ロビーにおいて各施設での手作りの食品・作品等を展示販売し活動紹介を行いました。また、台風の接近により、例年に比べ来場者数が減少しましたが、合計約600人の来場者となりました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	成果指標	コンサート参加者・来場者総数	目標	900	900				
				実績	600					
	2			目標						
				実績						
	3			目標						
実績										
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		ノーマライゼーションの広がりの中で、区民をはじめ地域に暮らし集う方々の相互理解と交流を深め、バリアフリー社会の構築と障害者福祉の増進に向けて、音楽を愛する区民の賛同を受けて地域では定着したコンサート事業となっています。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 28 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		事業の安定的継続へ向け、区役所・連絡会及び実行委員会による連絡調整を一層、密にするとともに、委託業務が円滑に行われるよう仕様書内容を精査しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	他に例を見ない宮前区独自の障害者福祉事業として実施してまいります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	合唱参加者、来場者ともに安定した実績を得ています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	事業の安定的継続へ向け、区役所及び実行委員会による連絡調整を一層、密にししながら事業を執行してまいります。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	宮前区の障害者福祉事業として、地域に広く定着しており、区役所及び実行委員会による連絡調整を一層、密にししながら事業の安定的継続へ取り組んでまいります。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	15	20	地域支援整備事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			695000		地域支援担当			野木	65514

事業の概要									
事業の概要		住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、行政のみでなく地域住民もそれぞれの役割を意識し、具体的な行動が取れるような地域支援体制の基盤整備を行う必要があります。そのためまず住民意識調査を実施し、その結果をもとに地域包括支援センター、町会・自治会、地区社協や民児協等の単位で啓発活動やワークショップを行いながら、住民の意識改革を推進し、地域包括ケアシステムの推進を図ります。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		地域の輪・健康づくり事業	
		平成29年度		—					
地域の課題と現状		地域活動やボランティア等に自発的、積極的に参加する区民も多く、サロン等の「集まりの場」も増加してきているが、若い世代との交流や新たな担い手の発掘が課題です。また、高齢化が顕著で活動の担い手が少なく、課題は多いものの住民間で共有化や検討することも困難な地区もあり、地域間で課題内容に大きな開きがあることも特徴です。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	170	88	0	0	3,026	3,026	170	170
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
		一般財源							

計画 (Plan)	
事業の目的	3者協定を活用し、具体的な取組みでや活動で、区民の意識改革を進めることによって、地域包括ケアシステムを推進していきます。
今年度の事業の取組内容	昨年度実施した住民意識調査の結果をもとに、地域包括支援センターの圏域会議や地域ケア推進会議を利用して、地域住民や関係機関と「地域の特性や課題」を共有します。その上で、自らが出来る事について考える動機づけをします。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		平成29年度に実施したアンケート調査結果を地域ケア会議等で各地域に還元し、それぞれの地域における地域づくりについて考えるきっかけとしました。また、地域づくりを推進するためのポスターやチラシを作成し、関係機関や会議等で配布し、地域包括ケアシステム(地域づくり)の意識向上に向けた啓発を行いました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	目標							
		実績							
	2	目標							
		実績							
3	目標								
	実績								
4	目標								
	実績								

評価 (Check)									
事業を取り巻く社会環境の変化		平成28年度より区役所にみまもり支援センターが設置され、住民が住み慣れた地域でいつまでも健康に過ごすことができるように、健康づくりに関する情報提供や住民との協働による啓発活動などにより、地域包括ケアシステムを推進しています。							
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載							
評価項目					評価				
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか				a. 薄れていない b. 薄れている	a			
	評価の理由	地域包括ケアシステムを推進するための基礎情報となるものです。							
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか				a. 上がっている b. 上がっていない	a			
	評価の理由	地域ケア会議等でのアンケート結果の還元や関係機関等へのポスターやチラシの配布により、地域の住民と共に地域づくりを進めることができました。							
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか				a. 可能性はない b. 可能性はある	b			
	評価の理由	仕様の見直しなどによる経費削減の可能性がります。							

改善 (Action)									
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性						
		I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I	平成30年度に引き続き、31年度も調査結果をポスターやチラシ等で地域住民に周知し、住民自ら地域の課題について考え、行政との協働による課題解決に向けた取り組みを推進します。					

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	02	05	子育て情報発信事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			695000		保健福祉センター地域ケア推進担当・保育所等・地域連携担当		仙石	65512	

事業の概要

事業の概要		宮前区内の子育て世代の育児の孤立化の防止や育児不安の軽減を図るために、さまざまな広報媒体を活用して、子育てを行う一人一人に必要な情報を分かりやすく丁寧に知らせることにより、区民同士が助け合い、安心して子育てができる環境を整備することを目的としています。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		総合的な子ども・子育て支援事業	
		—		—					
地域の課題と現状		<ul style="list-style-type: none"> 宮前区は0歳から14歳までの人口が7区中で最も多く、子育てに関する最新の情報を分かりやすく提供し、子育て世代の孤立感や育児不安を解消し、安心して子育てができる環境を整える必要があります。 宮前区独自のWEB版「みやまえ子育てガイドとことこ」の他、市全体を対象とするかわさきアプリ及び川崎市地域包括ケアシステムポータルサイトなど、広報媒体が増加する状況で、効果的な広報を検討していく必要があります。 							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	3,071	1,661	1,425					
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財			150					
	一般財源	3,071	1,661	1,275					

計画 (Plan)

事業の目的	多様な広報媒体を活用することで、宮前区内の子育て世代の育児の孤立化の防止や育児不安の軽減を図ります。
今年度の事業の取組内容	①子育て情報誌「みやまえ子育てガイドとことこ」の大規模改訂、②WEB版「みやまえ子育てガイドとことこ」のリニューアル、③ソーシャルネットワーキングサービスのフェイスブック及びツイッターによる情報発信、④地域子育て支援センターチラシの発行

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	①子育て情報誌「みやまえ子育てガイドとことこ」を大幅に改訂し新たに3,000部発行、②WEB版「みやまえ子育てガイドとことこ」の情報を整理し、より活用しやすい形態にリニューアル、③フェイスブック及びツイッターの活用、④地域子育て支援センターチラシ3,000部を発行しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	
	1	成果指標 子育て情報誌「みやまえ子育てガイドとことこ」の大改訂(発行数)	目標	3,000	7,000			部
			実績	3,000				
	2	成果指標 フェイスブックによる情報発信(フォロワー数)	目標	1,250	1,290			人
			実績	1,263				
3		目標						
		実績						
4		目標						
		実績						

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	情報発信の選択肢が多岐にわたるなか、より効果的な広報を検討していく必要があります。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 子育て情報誌「みやまえ子育てガイドとことこ」を、子育て当事者、障害支援に携わる専門家、子育て中の外国人市民を含む公募の編集会議を立ち上げ、区民の意見を取り入れ大規模に改訂しました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区民の意見を反映した冊子は、子育て当事者から支援者まで幅広く活用されています。また、フェイスブック等の電子媒体は、いつでも閲覧でき、時宜にかなった効果的な広報ができるため、さらなる活用の可能性があります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	子育てガイドは、子育て当事者の意見を大きく反映して改訂し、これまで以上に活用されるようになっていきます。また、フェイスブックの閲覧数が増加し、多くの反響が得られるようになっていきます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	情報誌に広告を掲載するなど、制作費用を軽減しながら作成していくことについて検討しています。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	印刷物については、部数の適正化を図りつつ、適宜、内容の見直しを実施し、発行していきます。また、電子媒体については、各ツールの特性を生かしたさらなる活用を図ります。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	20	10	宮前区子育て支援事業			
担当			所属コード	所属名		担当者	連絡先		
			695000	保育所等・地域連携担当		坂内	65708		

事業の概要									
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援拠点の充実を図り、育児力の向上と孤立化を防ぐための仲間作りを目的として、公営保育所が中心となり、区内民間保育所や地域の人材、関係機関と連携を図り、子育て支援事業を展開します。 地域みまもり支援センターにおける連携の中で、必要な情報を共有し、地域の子育て家庭への支援体制の強化を図ります。 区内保育所全体の保育の充実を目的に、連携会議や課題を捉えた研修の実施とともに、訪問による支援を行い、増加する民間保育所の保育の質の維持・向上を図ります。 							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		総合的な子ども・子育て支援事業			
		平成19年度	—						
地域の課題と現状		<ul style="list-style-type: none"> 子育て家庭の転入者が多く、0～2歳児の在宅での子育ての割合が高い中、子育てに関する相談が増加していることから、育児への不安や孤立感を抱きながら子育てをしている家庭が多いことがうかがえ、在宅の子育て家庭にむけた子育て支援事業の充実を図る必要があります。さらにはどの地域にも支援が行き届くような更なる仕組みづくりが課題であることから、子育て支援拠点の充実を図ることが求められます。 民間保育所が急増し、経験の少ない保育士が増加していることから、人材育成が喫緊の課題となっています。 							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	1,331	1,117	491					
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	1,331	1,117	491					

計画 (Plan)	
事業の目的	安心して子育てができる環境づくり、子育てを支援する体制づくり、子どもが健やかに育つ環境づくりを推進します。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 公営地域子育て支援センター等を活用した子育て支援事業の実施(食育講座、保育連続講座「親と子の子育て応援セミナー」、公営地域子育て支援センター土曜開所など) 公営・民間保育所連携事業の実施(保育士、栄養士、看護師などの専門職を含む連携会議や研修の開催)

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3	<ol style="list-style-type: none"> 目標を大きく上回って達成 目標を上回って達成 ほぼ目標どおり 目標を下回った 目標を大きく下回った 							
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> 公営地域子育て支援センター土曜開所を12回実施しました。父親のみの来所が増加傾向にあり、父親の育児参加の促進と母親のリフレッシュに繋がりはじめています。 公営・民間保育所連携事業認定こども園等子育て関連施設での連携会議を35回実施し、顔の見える関係づくりを構築しています。 								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	
	1	活動指標	「親と子の子育て応援セミナー」	目標	9	11			回
				実績	9				
	2	活動指標	食育講座「にこにこもぐもぐ」	目標	15	17			回
				実績	17				
	3	活動指標	公営・民間保育所連携会議	目標	35	33			回
実績				35					
4	活動指標	公営・民間保育所人材育成	目標	70	80			回	
			実績	87					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	地域における育児力の低下に伴う子育て家庭への支援の強化、また民間保育所の増加に伴う保育の質の確保が求められています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 26 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	「新たな公立保育所の機能(地域の子ども・子育て支援、民間保育所等への支援、公・民保育所人材育成)の推進にむけて、予算を増額した。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子育て支援におけるニーズが引き続き高いことや、民間保育所の増加も続いていることから事業の必要性は高いです。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	人材育成事業において、民間保育所への出張講座や、研修への参加者の増加等、保育の質の向上のための意識、ニーズの高まりが数値として表れていることから、一定の成果があったと思われま。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	地域や各保育施設のニーズを日々の活動等により的確に捉えた企画立案や公営保育所の専門性を活かした事業であることから委託等は適さないと考えます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援事業は、民間保育所との更なる連携強化により、子育て支援の場の拡充を図ります。 人材育成については、課題を捉えた研修や連絡会議の実施と、民間保育所への出張講座を充実し、保育の質の充実を図ります。 子育て支援、公民の連携、人材育成研修等の実施については、今後は、公立保育所や保育・子育て総合支援センターが担う民間支援や人材育成の役割として全市で横断的に実施していくため、令和元年度以降はこども未来局の「公立保育所運営事業」において取組を実施します。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	20	15	子ども支援ネットワーク事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			695000		保健福祉センター地域ケア推進担当		小森	65512	

事業の概要									
事業の概要		子どもたちの健やかな成長を支え、区における子育て支援を地域社会全体で推進していくため、地域の関係者が連携して情報共有及び意見交換を行い、乳幼児から児童・生徒までの子どもたちへの連続した支援体制として、子ども支援に関わるネットワーク会議、子育て支援関係者連絡会等を開催しています。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		総合的な子ども・子育て支援事業			
		—	—						
地域の課題と現状		宮前区は地形的に山坂が多く交通の利便性が悪い、子育て支援サービスの提供を受けにくい地域があります。また、7区中0歳から14歳までの子どもや子育て世代の転入者が多いことから、子育ての孤立化や慣れない生活環境での育児不安の軽減など、安心して子育てができる環境の整備が必要となっています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	401		303		218			
		財源内訳	国庫支出金						
		市債							
		その他特財							
		一般財源	401	303	218				

計画 (Plan)	
事業の目的	区における子育てを地域社会全体で支えるために、地域の関係者が連携し、様々な子どもの問題を解決・改善するために、関係機関・団体間の連携やネットワークの強化を図ります。
今年度の事業の取組内容	宮前区子ども・子育てネットワーク会議及び子育て支援関係者連絡会を開催して、情報共有及びネットワークの強化を行い、連携して子育てグループ交流会及び転入者のための交流会(うるかむクラス)事業に取り組みます。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度	3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> 宮前区子ども・子育てネットワーク会議7月10日、2月13日の開催 子育て支援関係者連絡会 年6回開催 子育てグループ交流会5月21日開催 うるかむクラス6月8日、18日、25日開催 								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	宮前区子ども・子育てネットワーク会議の開催	目標	2				回
				実績	2				
	2	成果指標	子育てグループ交流会	目標	30				人
				実績	17				
3	成果指標	転入者のための交流会(うるかむクラス)	目標	100				人	
			実績	154					
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化	共働き世帯や核家族化等により、子育て世帯と地域とのつながりが希薄化している社会状況に対し、継続的な対策が求められています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	イベントの実施を事務局と一部の実行委員のみで担っている執行体制の見直し及び広報の見直しを実施しました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	地域との交流が希薄化している現在の社会環境において、事業のニーズが高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	子育てグループ交流会の参加数は目標に達していないものの、グループ同士のつながりや課題の共有は図れており、事業の有効性は高いと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	イベントの内容の改善や広報の充実を進めています。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 子育ての関係団体の更なる連携強化や、地域とのつながりを求める子育て世帯のニーズに合ったイベント運営が必要のため、事業の改善を図りながら、今後も事業の維持・継続を考えております。	

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称		
款	項	目	大	中	小			
11	01	06	26	20	20	子ども包括支援事業費		
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先
			695000		保健福祉センターみまもり支援センター学校・地域連携		赤城	65703

事業の概要

事業の概要		「こどもサポート南野川」では、不登校・引きこもりなどの課題を持った子供たちと保護者の居場所づくりや生活・進路指導など、子育て支援の拠点として、就学児童から18歳までの子どもとその保護者を対象とした子育て支援を行っています。							
実施期間		事業開始年度 平成21年度		事業終了年度 —		予算中事業		総合的な子ども・子育て支援事業	
地域の課題と現状		今後も、地域包括ケアシステムの中で、当該事業が果たすべき役割や運用体系について、関係局、機関及び地域等と協議・調整をしながら、確立していく必要があります。 子どもたちが持つ課題は、多岐にわたり複雑で深刻なものも多く、これらに対応するために「地域みまもり支援センター」内の専門職、関連部署による協力体制の充実など、一層の連携強化が求められます。							
予算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	5,639	5,586	5,813					
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	5,639	5,586	5,813					

計画 (Plan)

事業の目的	子どもの成長に合わせたトータルサポートの実現や、課題を持つ子どもたちへのきめ細やかな対応による不登校・引きこもり状態の長期化の予防などを地域社会の課題として捉え、行政、地域、関係機関が連携して問題解決を目指します。
今年度の事業の取組内容	課題を持つ子どもたちの居場所づくり、生活・学習支援を業務委託により実施します。 生活・学習支援(常時)、相談業務(常時)、運営会議(年2回)、情報交換会(年2回)、見学会、学校担当者会(各年1回)

実施結果 (Do)

上記取組内容に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等	<ul style="list-style-type: none"> 運営会議2回、学校担当者会1回、情報交換会2回、見学会1回、保護者の会3回実施 各教科の学習指導、理科教室、進路学習等実施 農作業や体験学習、ふれあい活動の実施 						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1 活動指標	運営会議	目標 2 実績 2				
	2 活動指標	情報交換会	目標 2 実績 2				
	3 成果指標	こどもサポート南野川利用人数 (不登校支援に係る小・中・高校生延べ利用人数)	目標 1300 実績 1507				
	4		目標 実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化	不登校やひきこもりなどの課題を持つ児童・生徒とその保護者への支援や居場所づくり、未就学児を持つ保護者の子育て支援や親子間交流の場の提供など、切れ目の無い支援が求められる当該事業について、地域包括ケアシステムにおける位置づけ等を考慮し、その事業手法・執行体制について継続して協議・検討していく必要があります。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 所管課を地域ケア推進担当から学校・地域連携担当に変更したことにより、学校と地域との情報共有・連携がより円滑になりました。		
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	利用者数・相談者数共に増加傾向であり、また、多方面からの問い合わせや見学依頼も増加しており、事業ニーズは増していると考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	利用者数・相談者数共に増加傾向であり、また、利用中学生の高校進学率も高水準を維持しています。また、他学年でも学校に復帰できた、引きこもり状態から外出できたなどの成果が見られています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	利用生徒・児童の在籍する小中学校との連携の強化や、区役所との連絡体制の見直しによって経費削減や事務手続きの簡易化などの改善の余地があります。	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	不登校等の課題を抱えた児童生徒の支援に一定の成果が見られているため、現状のサービスは維持したまま、在籍する小中学校との連携をより深めることにより、より効率的な支援が行えるよう適宜見直しを行いながら、事業継続します。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	20	25	こども自然探検隊事業費			
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			695000		地域ケア推進担当		仙石	65512	

事業の概要										
事業の概要		区内の自然環境の中で、子どもたちが普段なかなか体験できない活動を思いきり行い、達成感や仲間とも連帯感を持つとともに、地域や身近な自然に関心を持つきっかけづくりとして、子どもたちに、森・里山遊び、農作業等体験等を実施しています。								
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		総合的な子ども・子育て支援事業				
		—	—							
地域の課題と現状		事業実施に当っては、子どもたちが安全に参加できるよう、地域の自然や地理・地形に精通し、子どもたちへ、これらの豊富な指導経験を持つスタッフによる対応が不可欠です。今後は、他の活動団体にもこの取組への参加を呼びかけ、都市部においても自然や地域とふれあう体験のできる場を確保していく必要があります。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費	103	89	162					
		国庫支出金								
	市債									
	その他特財									
	一般財源	103	89	162						

計画 (Plan)	
事業の目的	区内の自然環境を利用した森・里山遊び、農作業等体験等といった自然と触れ合うことで、自然を大切にすることを育てるとともに、これらの自然を守る大人たちとの交流する機会を持ち、地域コミュニティにおける子どもたちの繋がりを深め、活性化を図ります。
今年度の事業の取組内容	例年と同様、生田緑地内のとんり谷戸の自然を利用してジャガイモ掘りやロープ遊びなどを2回開催したほか、新たな取組みとして南野川ふれあいの森でフィールドビンゴや虫探しを1回開催しました。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		3回すべての開催日で15人の定員が埋まり、当日の急な欠席を除く延べ36名の参加がありました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指 標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1									
		目標								
		実績								
	2									
		目標								
		実績								
	3									
	目標									
	実績									
4										
	目標									
	実績									

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		当該事業が宮前区内に浸透してきたため、参加者が増加傾向にあります。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		これまで利用してきたとんり谷戸だけでなく、南野川ふれあいの森を会場とすることで、より参加しやすくなるように改善しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子どもの外遊びの機会が減少傾向にあるなかで、区内の自然を活かした貴重な体験ができる場として認知されており、毎年参加する方もいるなど、貴重な自然体験の場となっています。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	参加希望者が多く、すべての開催日で定員を上回る申し込みがあります。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	プログラムの更なる充実に向け、これまでの成果を踏まえ、他事業との連携について、検討の余地があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
プログラムの更なる充実に向け、これまでの成果を踏まえ、自然を利用した活動を行う他の事業及び地域団体との連携を検討していきます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	20	30	友好都市交流事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		まちづくり推進部地域振興課		蔡	65351	

事業の概要									
事業の概要		平成8年度から開始した長野県佐久市との友好都市交流事業は、現在次の2事業を実施しています。 ・子ども自然交流事業：都市化が進む宮前区の子もたちが、長野県佐久市での体験を通じて緑の保全などの重要性を学びます。体験研修のプログラム作りや、引率などを主体的に行うことができる市民活動団体に事業を委託しています。 ・物産観光交流事業：両都市の物産や観光交流人口の増加を目指して、宮前区観光協会に事業を委託しています。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		総合的な子ども・子育て支援事業	
		—		—					
地域の課題と現状		●宮前区には比較的多まりの緑が存在しているものの、全市的には樹林地や農地は減少傾向にあり、子どもたちが自然体験や農業体験をすることを通じて、将来に向けて里山や都市農業などの保全について理解を深めてもらう必要があります。 ●佐久市との友好都市締結から15年以上が経過し、両都市の置かれた状況も変化していることから、市民交流に加えて、観光物産交流などを発展的に進めていく必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	487	456	485					
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	487	456	485					

計画 (Plan)	
事業の目的	●市民交流や観光物産交流を進めることで、両都市の友好関係を深めると共に、宮前区の魅力である豊かな自然や観光資源などについて再認識してもらい、更なる魅力づくりにつなげてもらえるようにします。
今年度の事業の取組内容	●物産観光交流事業 ●子ども自然交流事業(民間交流事業)

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		友好都市である佐久市での子ども自然交流事業の実施を通じて、宮前区の魅力である豊かな自然や都市農業などの魅力について再認識してもらうことができました。物産観光交流事業は、平成30年度から宮前区民祭実行委員会の事業として実施することになりました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1		目標							
			実績							
	2		目標							
			実績							
3		目標								
		実績								
4		目標								
		実績								

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		都市における公園やオープンスペースの防災面での役割や、緑の保全や都市農業に対する関心は一層強くなっており、引き続き友好交流を通じた取組の必要性があります。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		物産観光交流事業を宮前区民祭実行委員会の事業として実施することになりました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	宮前区の魅力である豊かな自然や都市農業に対する関心は近年高まってきており、友好都市での自然体験のニーズに変化はないと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	本事業は区内で活動する市民活動団体に委託して実施しており、交流の積み重ねによる活動の広がりや宮前区での活動への効果などが上がっています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	事業の実施方法変更等により、引き続き経費削減に取り組んでいきます。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	子ども自然交流事業の実施に当たって、参加者の増加に向けて広報を拡充していきます。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	20	35	冒険遊び場活動支援事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			695000		地域ケア推進担当		仙石	65512	

事業の概要									
事業の概要		公園というオープンスペースを活用し、与えられた道具だけではなく、思いきり遊ぶことのできる外遊びの環境を確保するため、現在では6団体が実施団体登録をし、地域において、定期的に遊ぶことができる場を提供しています。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業	総合的な子ども・子育て支援事業				
地域の課題と現状		・現代の子どもたちは自由に遊べる空間が不足しており、公園などを活用し、地域住民が主体となって行う「冒険あそび場」活動を支援することにより、一層の地域コミュニティの活性化と次世代育成の場づくりを推進する必要があります。 ・公園を地域コミュニティの拠点として機能させるには、乳幼児からシニア世代まで幅広い年齢層の多くの人が、気兼ねなく集い利用してもらえる工夫が必要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	701	681	606					
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	701	681	606					

計画 (Plan)	
事業の目的	子どもたちが想像力を働かせて思いきり遊ぶことができる外遊びの環境を確保及び近所に住む様々な世代や年齢の人たちが集い関わり合うことの期待できる事業を推進することで、地域コミュニティの活性化につなげていきます。
今年度の事業の取組内容	必要な遊具や物品の貸出、月1回のネットワーク会議の開催等の地域主体の活動支援、普及啓発のためのシンポジウムの開催及び広報用リーフレットを宮前区内の各小学校1年生へ配布しています。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		登録されている6団体が各公園で定期的に冒険遊び場を開催し、多世代交流の場として活動を行いました。また、出張冒険遊び場を2回、シンポジウムを1回開催するとともに、広報資料として作成したリーフレットを関係機関に配布するなど、普及啓発に関する活動を行いました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	冒険遊び場活動団体のネットワークへの登録団体数	目標	6				
				実績	6				
	2	活動指標	ネットワーク会議の開催	目標	12				
				実績	12				
3	活動指標	シンポジウムの開催支援	目標	1					
			実績	1					
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		子どもたちの成長や地域コミュニティの活性化の果たす役割など、その成果について地域住民等から一定の理解が得られていますが、多世代交流の場として、より一層の普及が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		出張冒険遊び場として活動していた公園が、正式に登録団体として活動を始めたので、新たな公園での出張冒険遊び場開催に向けて取り組んでいきます。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子どもの育ちの場としてだけでなく、多世代交流ができる場としての機能を持つため、地域包括ケアシステムの推進にあたり、必要性が高い取組です。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	今年度より活動団体が増え、事業規模の拡大につながっています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	冒険遊び場活動の実績とノウハウを持つ区内の市民団体に支援業務の委託を行っており、民間事業者への委託では得られない高い効果を最低限の経費で実現しています。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
冒険遊び場活動と類似の活動を行う他団体との連携も視野に入れ、事業のさらなる広がりを探っていきます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	25	05	安全安心まちづくり推進事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			690000		危機管理担当		栗野	65352	

事業の概要											
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ●安全安心に関わる様々な分野の団体が構成される「宮前区安全・安心まちづくり推進協議会」を軸として、区民、地縁団体、事業者、行政機関などの連携・協働により、それぞれの対策を推進し、区民の暮らしやすい環境づくりに取り組みます。 ●パトロール用資機材の貸与や落書き消し用品の提供を行い、地域の活動を支援します。 ●要望の多い、通学路等における交通安全対策として、啓発看板等の掲出等を行います。 ●「神奈川県犯罪のない安全・安心まちづくり推進条例」や「市安全・安心まちづくり推進計画」を基に、宮前区安全・安心まちづくり推進協議会と協働し推進します。 									
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		安全・安心・快適まちづくり事業費			
		—		—							
地域の課題と現状		地域での結びつきが希薄になっていく中、自分たちのまちは自分たちで守るという意識を浸透させ、地域内の結びつきを強くするとともに、地域での活動の推進を図り、安全で安心なまちづくりを進めていく必要があります。									
予決算 (単位:千円)		年度		H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		事業費		予算額		決算額		予算額		決算額	
		財源内訳		1,695		1,580		1,846			
		国庫支出金									
		市債									
		その他特材									
		一般財源		1,695		1,580		1,846			

計画 (Plan)	
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ●区民誰もが安全で安心して暮らせるまちを形成していきます。 ●地域防犯活動を支援するため、地域の自発的な活動を支援します。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ●自主防犯活動への支援 ●地域パトロールや落書き消し等の支援 ●通学路を中心とした啓発看板の掲出等による交通安全対策の推進 ●啓発看板等の効率的な維持管理に向けた調査(4小学校区) ●中学生及び高校生を対象としたスクエアドストレート方式交通安全教室の実施

実施結果 (Do)															
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成		4. 目標を下回った									
				2. 目標を上回って達成		5. 目標を大きく下回った									
				3. ほぼ目標どおり											
取組内容の実績等		スクエアドストレート方式交通安全教室を平成27年度より導入し、3か年で区内全8中学校を実施しました。また、平成30年度から始まった新たなサイクルに県立川崎北高校を加え、より対象を拡大し交通安全教育を実施しました。													
数値で把握することが可能な取組		指標分類		指標		H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		単位	
		1 成果指標		スクエアドストレート方式交通安全教室の実施		目標 3		3		3		3		件	
						実績 3									
		2 成果指標		保育園・幼稚園及び小学校における交通安全教室の実施		目標 75		75		75		75		件	
						実績 76									
		3				目標								件	
						実績									
		4				目標								件	
						実績									

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		未成年が加害者になる自転車死亡事故も発生しており、より継続的な交通安全教育が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		スクエアドストレート方式交通安全教室を平成27年度より導入し、3か年で区内全8中学校を実施しました。また、平成30年度から始まる新たなサイクルに県立川崎北高校を加えた計画を策定し、対象を拡大しました。(平成29年度) 県立川崎北高校を加えた3校において、スクエアドストレート方式交通安全教室を実施しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	高齢者の引き起こす交通事故等が発生しているため、ニーズが増えています。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	実施の目標に対して順調に処理しています。また、スクエアドストレート方式の交通安全教室で実施したアンケートにて、高い有効性が認められています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	関係団体、委託団体等とより連携し、効率性を上げていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I 本事業は地域の自主的な活動を支援することにより、区内の安全安心を推進する事業であることから、地域の実情に応じたきめ細やかな支援を継続的に行うことが必要であり、現状の支援体制を維持し、活用する必要があります。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	25	10	子ども安全・安心見守り事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			695000		地域ケア推進担当		仙石	65512	

事業の概要									
事業の概要		宮前区安全・安心まちづくり推進協議会の設立総会時に、宮前区PTA協議会からの提案により、部会組織として同日に設置し、宮前区安全・安心まちづくり推進協議会総会と同時開催により、活動報告、活動計画について確認し、宮前区全体で安全・安心のまちづくりを推進しています。各小学校の見守り活動(パトロール)等の状況(登下校時や、長期休み等における実施内容)を報告し、地域が活動に多く参加している学校の取り組み状況などについての情報交換を行い、効果的な活動を行っています。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		安全・安心・快適まちづくり事業			
		—	—						
地域の課題と現状		子どもたちの安全・安心を確保するために、関係機関、団体、地域住民等の連携強化を図るとともに、地域における子どもの安全に関する意識や子どもたち自身の危機管理能力を高めていく必要があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	124	33	78					
財源内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	124	33	78					

計画 (Plan)	
事業の目的	区内の学校、保護者、地域住民、事業者、関係団体、警察、及び区役所等行政機関が相互に連携することにより、子どもを交通事故や犯罪から守り、登下校時等における子どもの安全の確保を図ります。
今年度の事業の取組内容	子ども安全・安心協議会における会議を開催し、情報提供および意見交換を行います。また子どもの安全・安心に関わる講義を開催し、知識の醸成を図ります。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		子ども安全・安心協議会のなかで、各委員から宮前区内の安全に関する活動について情報共有を行い、地域全体で子どもの安全を見守る連携体制を整えました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	子ども安全・安心協議会の開催	目標	2				
				実績	2				
	2			目標					
				実績					
3			目標						
			実績						
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		地域コミュニティの希薄化が問題とされている現代の社会環境のなかで、子どもたちの交友関係や、その周囲の環境に対する注目が集まってきており、子どもたちの安全を地域全体で確保することが求められています。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近)平成 28 年度 □ 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		子ども安全・安心協議会については、宮前区安全・安心まちづくり推進協議会の部会組織という位置付けであることから、親会議を所管する危機管理担当へ事務局を移管について検討しました。また、「地域安全マップづくり」への支援について、平成28年度から休止しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	子どもの事件が多様化しているなかで、区内にある児童の安全に関わる団体が一堂に会し、情報交換を行う場として安全・安心なまちづくりに向けて重要です。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	総会及び連絡会を開催し、情報の共有を図り、連携を深められたと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	他の子ども関係会議を重複する委員が多いため、関係者等と協議を行い、会議のあり方や内容について改善していく余地があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 子どもの事件が多様化するなかで、より一層地域のなかで連携できる体制づくりを進めていくために、会議の在り方や内容について検討しながら、安全・安心なまちづくりを目指していきます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	25	15	防災意識普及啓発事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			690000		危機管理担当		森山	65361	

事業の概要									
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ●各種の防災意識普及啓発行動(防災ニュースの発行、防災フェアの実施等)を行い、区民一人ひとりに防災に関する知識を根付かせることにより、防災意識の向上を図ります。 ●地域で防災活動の中心となる地域防災リーダーの育成を目的とした「防災推進員養成研修」及び養成研修を受講した防災推進員の更なる知識・能力向上を目的とした「防災推進員フォロー研修」を実施することにより、地域の防災力向上に繋げていきます。 							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		安全・安心・快適まちづくり事業費	
		平成20年度		—					
地域の課題と現状		大規模災害発生時の被害を最小限に抑えるため、区民一人ひとりに防災に関する知識を根付かせ、防災意識を向上させる取り組みを進めていく必要があります。							
予算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2,512	2,216	2,405					
財源 内訳	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源	2,512	2,216	2,405					

計画 (Plan)	
事業の目的	●区民一人ひとりに防災に関する知識を根付かせることにより、防災意識の向上を図ります。
今年度の事業の取組内容	●防災ニュースの発行(年3回)。また、地域防災リーダーの育成を目的とした「防災推進員養成研修」及び養成研修を受講した防災推進員のさらなる知識・能力向上を目的とした「防災推進員フォロー研修」を実施。さらに、防災フェアを総合防災訓練と同時開催し、防災意識普及啓発促進を図りました。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		<ul style="list-style-type: none"> ●防災ニュースは目標どおりの発行を行いました。 ●防災フェアは29年度より下回りましたが、親子向けに効果的な周知ができました。 ●防災推進員は新たに60人の登録があり、目標を超えて達成することができました。 								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	防災ニュースの発行部数(年3回)	目標	30,000	30,000	30,000	30,000	部	
				実績	30,000					
	2	活動指標	防災フェア参加人数	目標	600	600	600	600	人	
				実績	600					
3	成果指標	宮前区防災推進員登録者数	目標	540	580	620	660	人		
			実績	565						
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		例年、震災害、風水害による被害が全国的に発生しており、防災及び減災に関する知識の普及啓発が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		防災等の知識を親子向けに特化し普及を図るため防災フェアを単独開催に戻し、防災キャンプや防災クイズなど親子が楽しめる内容に変更しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	例年、災害が発生していることから、ニーズが高まっています。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	防災推進員が自治会等で防災担当を担うことで、自治会単位での防災力の向上を図ることができています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	改善を行ってきた結果として現状の取り組みとなってきたことから、事務改善の可能性はないと考えています。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
	防災フェアについて、平成30年度の成果を熟考し、平成31年度について前年度より効果的な啓発や集客できる工夫について、協力団体と協議、検討していきます。また防災推進員の育成について、これまで業者委託で行ってありますが、区側からも側面支援を図っていく予定です。	

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	25	20	地域防災力向上事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			690000		危機管理担当		森山	65361	

事業の概要									
事業の概要		<p>●宮前区の防災力向上に向け、防災に関する必要な事項を検討し、情報の共有化を図るため、宮前区を管轄する公共公益機関及び関係団体等を構成員とする宮前区地域防災連絡会議における検討を進めます。所掌事項は、宮前区地域防災計画に関すること、地域防災力向上に向けた各種取組と連携に関すること及び地域防災力向上に向けた情報共有等を推進します。</p> <p>●大規模災害発生時の被害を最小限に抑える取組として、地域防災連絡会議各分会での課題・問題点の抽出とその対応検討の結果と、行政の災害対応力強化を目指して事業を進めます。9か年の計画により、各避難所に必要な備品を配備します。</p>							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		安全・安心・快適まちづくり事業費	
		平成24年度		—					
地域の課題と現状		<p>公共公益機関及び関係団体を構成員とする宮前区地域防災連絡会議において、各機関の担当が代わることにより、取り組みや連携の強化、向上を行っていく必要があります。</p> <p>避難所滞在環境改善のため、必要な備品の配備が必要となります。</p>							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	財源内訳	事業費	1,450	1,254	1,528				
		国庫支出金 市債 その他特材 一般財源							
		1,450	1,254	1,528					

計画 (Plan)	
事業の目的	●区内関係機関・事業者・地域団体等で構成される宮前区地域防災連絡会議及び各分会における課題の検証と検討を行い、地域防災力を向上します。
今年度の事業の取組内容	●避難所滞在環境改善のための「避難所備蓄エアマット」を配備します。

実施結果 (Do)											
上記取組内容に対する達成度		4		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		石油価格の高騰によりエアマットの仕入れ価格が上がったことにより、当初の予定価格で発注することができませんでした。									
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	
	1	活動指標	避難所備蓄エアマット整備箇所数(全25箇所、3年計画)			目標	11	11	11	11	箇所
			実績	9	10						
	2			目標							
				実績							
	3			目標							
実績											
4			目標								
			実績								

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		高齢化が進んでいること、要配慮者が避難所で滞ることが考えられることから、少しでも避難所環境を改善しようという動	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 29 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		9か年計画で配備していたエアマットが計画通りに配備できていなかったことから、平成29年度から予算額を増額計上し対応しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	高齢化や要配慮者等への対応として、避難所環境の改善を目的とした備品のニーズが増えています。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	防災訓練等でエアマットの展示、体験を行ったとき、参加者からは環境改善にとっても良いと喜びの声を頂いています。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	石油価格に左右されるため、改善の可能性はありません。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
価格の推移に注意して、継続してエアマットの整備を行っていきます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	25	25	次世代まちづくり事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691650		宮前区役所まちづくり推進部企画課		山田	65123	

事業の概要									
事業の概要		次世代につながる暮らしやすさの向上を意識した長期的な視点に立ち、地域住民・事業者・区役所との協働・連携により、宮前区の地域特性を踏まえた身近な生活課題の解決に寄与する地域主体の取組を支援します。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		安全・安心・快適まちづくり事業	
		平成27年度		—					
地域の課題と現状		地域を良くしたいと考える地域住民や地域貢献に意欲のある事業者等を区役所がつなぎ、それぞれの強みを活かした協働・連携を図ることにより、起伏に富んだ地形や高齢化の急速な進行といった宮前区の地域特性から生じる生活課題の解決につなげることが期待できます。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R01年度		R02年度		R03年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
財源内訳	事業費	0	0						
	国庫支出金	0	0						
	市債	0	0						
	その他特財 一般財源	0	0						

計画 (Plan)	
事業の目的	次世代につながる暮らしやすさの向上に資する地域主体の取組を支援します。
今年度の事業の取組内容	坂が多い地区等に住む高齢者等の日常の買い物をしやすくするとともに、地域住民の見守り・支え合いにつなげるため、町内会館・自治会館等で地域住民が企業の協力を得て行う出張販売会の開催に向けて、関係者間の合意形成を図ります。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		住民主体の出張販売会の開催に向けて、庁内の関係課、事業者、地域住民との調整を重ね、関係者間の合意形成を図りました。平成30年12月に東急ストアと区で「市営高山団地集会所における住民主体の出張販売会」に関する協定を締結し、毎週土曜日に出張販売会を実施しています。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	単位	
	1	活動指標	次世代につながる暮らしやすさの向上に資する取組の実現に向けて取り組んでいる地区の数			1				
			目標	1						
	2					目標				
			実績							
	3					目標				
			実績							
	4					目標				
実績										

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		地域住民・事業者・区役所との協働・連携により、それぞれの強みを活かして柔軟に課題解決を図る事業の特性を活かして、社会状況の変化に臨機応変に対応していきます。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近) 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 今後実施(平成30年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	
平成29年度の予算執行を見送り、平成30年度以降は原則として予算措置を行わず、関係者間の丁寧な合意形成を図りながら、協働・連携によりそれぞれの強みを活かして実施する事業として整理しました。その結果、年度末までの予算執行にとられる必要がなくなり、調整状況に応じた柔軟なスケジュールで取り組めるようになっています。			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	社会状況の変化に臨機応変に対応できる事業スキームであるため、ニーズは薄れないと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	庁内の関係課、事業者、地域住民との調整により、1地域において、出張販売会の実施について関係者間の合意形成ができました。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	予算措置のない事業であるため、契約方法や仕様の見直しなどによる経費削減の余地はありません。また、協働・連携の手法により、関係者間の丁寧な合意形成を行って進める事業のため、効率性の追求はなじまないと考えられます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I 宮前区における身近な生活課題の解決に向けて、多様な主体との協働・連携により、次世代につながる暮らしやすさの向上に資する地域主体の取組が進むよう、引き続き支援していきます。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	05	30	宮前区スポーツ環境整備事業			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			691700		まちづくり推進部地域振興課			斎藤	65360

事業の概要									
事業の概要		西長沢公園多目的広場の除草、ダスト舗装及び鷺ヶ峰けやき公園多目的広場の補修を行います。							
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		安全・安心・快適まちづくり事業	
		平成24年度		—					
地域の課題と現状		屋外スポーツ施設の少ない宮前区では、より多くの区民がスポーツを楽しめる環境を整えるため、既存施設の補修・整備が必要です。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	4,568	4,477	4,226					
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特材							
		一般財源	4,568	4,477	4,226				

計画 (Plan)	
事業の目的	西長沢公園多目的広場、鷺ヶ峰けやき公園多目的広場で区民が快適にスポーツを行えるよう環境整備を行います。
今年度の事業の取組内容	西長沢公園多目的広場の除草、ダスト舗装及び鷺ヶ峰けやき公園多目的広場の補修

実施結果 (Do)							
上記取組内容に対する達成度	3 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等	目標どおり達成できました。 ・西長沢公園多目的広場の除草、ダスト舗装実施						
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1		目標				
			実績				
	2		目標				
			実績				
3		目標					
		実績					
4		目標					
		実績					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		神奈川県内広域水道企業団が実施する耐震工事に伴い使用できなくなるため、新たな場所を探す必要があります。	
事業の見直し・改善内容		■ 実施 (直近)平成 年度 ■ 今後実施(令和 2 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	b
	評価の理由	西長沢公園については、令和2年度から耐震補強工事が始まるため、ダスト舗装の必要はなくなります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	市民が安全にスポーツを行うことができているため、一定の成果があったと考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	西長沢公園の耐震補強工事後は、道路公園センターに業務移管の予定です。	

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II	鷺ヶ峰けやき公園多目的広場の保守については、引き続き必要と考えられます。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	45	05	区役所庁舎エコ化事業費			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			691600		宮前区役所まちづくり推進部総務課			大谷	65111

事業の概要									
事業の概要		庁舎の省エネルギー化(遮光遮熱フィルム設置及び照明設備のLED化)を推進することで、市民への省エネ意識を啓発することはもとより、快適な庁舎利用及びサービス向上を行います。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		区役所サービス向上事業			
		平成25年度	—						
地域の課題と現状		庁舎における節電対策が求められており、電力使用の大部分を占める照明について対策が必要となっています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2345	1954						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
		一般財源							

計画 (Plan)	
事業の目的	来庁者が省エネに興味を持っていただくのと同時に、より快適に庁舎を利用していただくようにします。
今年度の事業の取組内容	1階ロビー及び2階ロビー(一部)の照明設備をLED化します。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		1階ロビー及び2階ロビー(一部)の照明設備をLED化しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	照明設備のLED化	目標	101				本
				実績	160				
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
実績									
4			目標						
			実績						

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		地球温暖化や環境問題は社会の継続課題であり、エコ意識の高まりは継続しています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 26 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から) 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 ・区役所について、平成26年度に遮光遮熱フィルム設置が予定どおり完了したため、平成27年度から遮光遮熱フィルム設置を行っていません。	
		評価項目	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	庁舎の省エネルギー化を推進することで、市民に対し環境啓発を行うことはもとより、快適な庁舎利用サービス向上につながっていると考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	事業開始前(平成22年度)に比べ、消費電力量が約75%に収まっております。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	事業の取組の見直し(LEDの仕様変更等)を行うことで、より効果的に事業を進められる可能性があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
事業の取組の見直し(LEDの仕様変更等)を検討しつつ、事業を継続することが適切であると考えられます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小	みやまえロビーコンサート開催事業費			
11	01	06	26	45	10				
担 当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691700		地域振興課		岸本	65358	

事業の概要										
事業の概要		毎月1回(年間12回)区役所2階ロビー等において、ランチタイムの時間帯(12.05~12.45)に「みやまえロビーコンサート」を開催します。年間12回のうち区役所以外の区内行政施設においては巡回コンサートとして開催します。								
実施期間		事業開始年度		事業終了年度		予算中事業		区役所サービス向上事業		
		平成5年度		—						
地域の課題と現状		市民にとって区役所等の行政施設は必要な各種手続き等を行う場所となっており、親しみも希薄な状況にあります。区役所に対するイメージアップを図り、区民の行政に対する意識や地域への関心等の向上へつなげてまいります。								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	
	財源 内訳	事業費		2,960	2,592	2,035				
		国庫支出金								
市債										
	その他特財									
	一般財源	2,960	2,592	2,035						

計画 (Plan)	
事業の目的	主に区役所来庁者の事務手続き待ち時間等を音楽演奏によって潤いのあるひと時としていただくため、区民サービスの一環としてランチタイムコンサートとして開催します。音楽を通じて、行政施設に対する親近感を高めるとともに、地域コミュニティの拠点としての機能強化を図り、区民の憩いの場、交流の場として、気軽に、身近に上質な音楽と接することができるよう文化意識の向上につなげていきます。
今年度の事業の取組内容	毎月1回(年間12回)区役所2階ロビー等において、「みやまえロビーコンサート」を開催します。年間12回のうち区役所以外の区内行政施設においても巡回コンサートとして開催し、提供する音楽は上質で季節に応じた、また、幅広いジャンルのプロ又はそれに準ずる演奏者とする事で、コンサートの質を担保し、来場者の増加や区民の満足度を高めます。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり							
取組内容の実績等		毎月1回(年間12回)区役所2階ロビー等において、「みやまえロビーコンサート」を開催しました。年間12回のうち区役所以外の区内行政施設においても巡回コンサートとして開催し、提供する音楽は上質で季節に応じた、また、幅広いジャンルのプロ又はそれに準ずる演奏者とする事で、コンサートの質を担保し、約2,000人の来場となりました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類		指 標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	成果指標	ロビーコンサート来場者数	目標	2,000	1,600				
				実績	2,000					
	2			目標						
				実績						
3			目標							
			実績							
4			目標							
			実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		音楽のライブ演奏による潤いのあるひと時を過ごすことは、市民生活の中で貴重な時間であり、また、区民サービスの一環としても区民から高い評価を得ている。今後も行政施設に対する親近感を高めるとともに、区民の憩いの場、交流の場として充実させてまいります。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) 平成 28 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>		より上質で幅広いジャンルの音楽を区民に提供するため委託仕様書内容を精査しました。	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	音楽のライブ演奏による潤いのあるひと時を過ごすことは、市民生活の中で貴重な時間であり、また、区民サービスの一環としても区民から高い評価を得ている。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	毎回安定した来場実績を得ており、アンケート結果からも非常に高い評価を得ている。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	区民から高い評価を得ている事業のため、委託により事業を継続していく必要がある。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
		区民サービスとして区民から高い評価を得ており、企画内容の充実に努めて事業を継続してまいります。

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	45	15	宮前区役所BGM配信事業費			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			691600		総務課			深澤	65112

事業の概要									
事業の概要		区役所庁舎に音楽を流すことで来庁者の受付待ち時間のストレス軽減を図り、区役所サービス向上につなげることを目的に平成14年10月から本事業を実施、区役所に設置している専用のスピーカーを用いてBGMを庁舎内に配信しています。							
実施期間		事業開始年度 平成14年度		事業終了年度 —		予算中事業		区役所サービス向上事業	
地域の課題と現状		区民課・保険年金課等の窓口来庁者の多いフロアを中心に受付待ちの時間が生じてしまうことが多くあります。特に繁忙期等は受付待ちが長時間にわたることもあり、そのことが来庁者のストレスとなってクレームや区役所イメージの低下につながる恐れもあります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	45	45						
	財源内訳	国庫支出金							
	市債								
	その他特財								
	一般財源								

計画 (Plan)	
事業の目的	区役所庁舎に音楽を流すことで来庁者の受付待ち時間のストレス軽減を図り、区役所サービス向上につなげます。
今年度の事業の取組内容	区役所庁舎内にBGMを配信し、区役所サービスの向上につなげます。

実施結果 (Do)												
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った									
取組内容の実績等		目標通り達成できました										
数値で把握することが可能な取組		指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	
		1	活動指標	年間を通した庁舎内のBGMの配信	目標							回 (通年)
					実績	1						
		2			目標							
					実績							
		3			目標							
					実績							
		4			目標							
実績												

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		区役所庁舎内で求められるサービスの質は、年々より高いものを求められる傾向にあります。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	区役所サービス向上の要求は高まっており、事業の必要性も継続していると考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	BGMに対するクレーム等は出しておらず、ストレス軽減の効果は発揮されていると考えられます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	評価の理由	現在も低額の予算で事業を実施できており、現状維持を予定しております。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	I
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 庁舎内におけるBGM配信は区民に浸透しており、今後も継続していきたいと考えています。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	45	20	バリアフリー推進事業費			
担当			所属コード		所属名			担当者	連絡先
			691600		宮前区役所まちづくり推進部総務課			大谷	65111

事業の概要									
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ●市民広場及び区役所周辺のタイルをノンスリップ化することにより、市民広場利用者が安全・安心に庁舎等を利用できることを目的とします。 ●平成15年度から地域課題対応事業にて事業を開始しました。区役所周辺のタイルのノンスリップ化を実施し、現状市民広場が未実施箇所となっている状況です。 							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		区役所サービス向上事業			
		平成15年度	—						
地域の課題と現状		区役所・市民館の間にある広場は、庁舎建築後36年による劣化により、タイルが欠けたり滑りやすい状態になっており、転倒等による事故が発生する可能性があります。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	2495	1922						
	財源内訳	国庫支出金							
		市債							
		その他特財							
		一般財源							

計画 (Plan)	
事業の目的	市民広場利用者が安全・安心に庁舎等を利用出来ることを目的とします。
今年度の事業の取組内容	市民広場のタイルを張り替えます。

実施結果 (Do)										
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等		市民広場中央部分のタイルの張り替え、市民館裏歩道のタイルをアスファルト舗装に替えました。								
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標				H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1	活動指標	タイルの張替え	目標	80					㎡
				実績	85.9					
	2			目標						
				実績						
	3			目標						
				実績						
	4			目標						
実績										

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		高齢者や障害者を含めたあらゆる人々が社会のあらゆる活動に参加、参画するとともに、社会の担い手として役割と責任を果たすことができる社会を形成していくことは、現在も求められ続けています。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	来庁者にとって安全・安心に庁舎等を利用出来るため、ニーズは高いと考えられます。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	タイルを張り替えた部分については、以前より市民広場利用者にとって安全・安心な場所になっております。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	タイルの仕様変更等による取組みの見直しを行うことで、より効果的に事業を進められる可能性があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		
取組みの見直し(タイルの仕様変更等)を検討しつつ、事業を継続することが適切であると考えられます。		

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	45	25	窓口サービス向上事業			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			693300		宮前区役所区民サービス部区民課		岩谷	65237	

事業の概要									
事業の概要		来庁者が、区役所で過不足なく必要なサービスを受け快適に利用していただくため、接遇研修会の実施を図ることによって職員の質の向上を図り、またワーキングチームを結成し、窓口サービスについての施策検討を行います。							
実施期間		事業開始年度	事業終了年度	予算中事業		区役所サービス向上事業			
		—	—						
地域の課題と現状		区役所で行う手続き等については、年々その取扱いが細分化されることにより、窓口で案内を行う職員の質の向上が必須となっています。また、窓口で快適に過ごしていただく環境の最適化も、必要なものと考えています。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
	事業費	172	154	161					
	財源内訳								
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財								
	一般財源	172	154	161					

計画 (Plan)	
事業の目的	来庁者が、“窓口利用後にいかに気持ちよく後にしてもらえるか”の考えのもとに、①「接客サービス」、②「待合スペースや窓口の環境整備」の向上を図ります。
今年度の事業の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 転入者への各種手続き案内チラシの作成及び配布 待合ロビー内キッズコーナーへの絵本の補充 接遇研修会等の実施 団扇型順番待ち番号カードの使用

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等		ほぼ目標どおり達成できました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標		H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位	
	1	活動指標	転入者への各種手続き案内チラシの配布	目標	100				%
				実績	100				
	2	活動指標	待合ロビー内キッズコーナーへの絵本の補充	目標	9				冊
				実績	9				
	3	活動指標	接遇研修会等の実施	目標	2				回
実績				2					
4	活動指標	若手職員による「ワーキングチーム」の打合せ	目標	17				回	
			実績	17					

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		窓口で求められるサービスの質は、年々より高いものを求められる傾向にあります。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 30 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		・掲示物の見直し(過去の掲示物のテープ跡撤去、既存の掲示物を一新してよりわかりやすい内容に変更) ・「おさんぼマップ」の作成	
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	窓口サービスのより良い質への向上は、継続的に求められる状況にあります。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	目標で設定した活動指標の設定値を達成しており、成果があったと考えます。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	ワーキングチームでの討議等により、今後もより良いサービスを提供するための改善を行っていきます。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II
	「来庁者にいかに満足してもらえるか」という窓口サービスの向上については、常に考えていかなければならない課題であり、そのための環境整備は必須事項であると言えます。今後も現状のサービスを維持しながら、さらに質の高いサービスの提供を目指して取り組みの強化を図っていきます。	

平成30年度 地域課題対応事業評価シート(宮前区)

地域課題対応事業 予算コード						地域課題対応事業 予算小事業名称			
款	項	目	大	中	小				
11	01	06	26	45	30	サービス向上推進事業費			
担当			所属コード		所属名		担当者	連絡先	
			691600		宮前区役所まちづくり推進部総務課		大谷	65111	

事業の概要									
事業の概要		●男子トイレ自動洗浄機設置・トイレ手すり設置・ガラス補修・視覚障害者誘導ブロック設置を実施し、来庁者にとって安全で快適な庁舎にします。							
実施期間		事業開始年度 平成25年度		事業終了年度 —		予算中事業		区役所サービス向上事業	
地域の課題と現状		区役所のトイレについては、男子小便器が自動洗浄になっていない部分や手すり未設置部分があり、一部の利用者にとっては快適にトイレを利用することが出来ない状況です。震災等でガラスが破損し破片が飛散した場合、ガラス付近を通りかかった利用者が被害を受ける恐れがあります。区役所には視覚障害者誘導用の対策が十分に施されておらず、現状では付き添いが無いと目的の窓口(主に3階の障害者支援係)に向かうことが難しい状況です。							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		H31年度		H32年度		H33年度	
		予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額	予算額	決算額
財源内訳	事業費	4482	3377						
	国庫支出金								
	市債								
	その他特財 一般財源								

計画 (Plan)	
事業の目的	来庁者にとって安全で快適な庁舎にします。
今年度の事業の取組内容	(1)区役所4階男子トイレ小便器に自動洗浄装置を設置します。(2)区役所トイレのうち、手すり未設置部分に手すりを設置します。(3)区役所2階ロビー・レストランのガラスについて飛散防止フィルム張替を実施します。(4)区役所3階に視覚障害者誘導ブロックを設置します。

実施結果 (Do)									
上記取組内容に対する達成度		3		1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等		(1)区役所4階男子トイレ小便器に自動洗浄装置を設置しました。(2)区役所トイレのうち、手すり未設置部分に手すりを設置しました。(3)区役所3階に視覚障害者誘導ブロックを設置しました。							
数値で把握することが可能な取組	指標分類	指標			H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	単位
	1 活動指標	男子トイレ小便器 自動洗浄機器設置	目標	5					箇所
			実績	5					
	2 活動指標	トイレ 手すり設置	目標	20					箇所
			実績	20					
3 活動指標	視覚障害者誘導ブロック設置	目標	96					枚	
		実績	108						
4		目標							
		実績							

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化		公共施設が安心安全で誰もが快適に利用できる場所であるべきであり、市民からの要望も継続して受けています。	
事業の見直し・改善内容		<input type="checkbox"/> 実施 (直近)平成 年度 <input type="checkbox"/> 今後実施(平成 年度から)	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			
評価項目		評価	
必要性	事業を取り巻く社会環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	評価の理由	すべての来庁者が快適で安心安全な庁舎利用が出来るための区役所サービス向上事業は必要とされている。	
有効性	活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 上がっていない	a
	評価の理由	事業を実施した部分については、以前より来庁者にとって快適で安心安全な場所になっております。	
効率性	事業の成果を維持しながら、役割分担、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある。	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	評価の理由	施設の劣化状況や来庁者及び職員の意見を参考に、取組みの見直し(追加等)を検討することで、庁舎がより快適で安心安全な場所になる可能性があります。	

改善 (Action)		
今後の事業の方向性	方向性区分	方向性
	I. 現状のまま継続 II. 見直し・改善のうえ継続 III. 事業終了	II 施設の劣化状況や来庁者及び職員の意見を参考に、取組みの見直し(追加等)を検討します。
実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性		